



ESMPRO/ServerManager Ver.5 コマンドラインインターフェース

第1章 コマンドラインインターフェースについて

第2章 コマンド一覧

目次

表紙	1
目次	2
商標について	5
本書について	6
第 1 章 コマンドラインインターフェースについて	7
1.1 動作環境	8
1.2 実行方法	9
1.2.1 コマンド実行時の注意事項	9
1.3 実行結果	10
1.4 実行例	10
1.5 複数のESMPRO/ServerManagerからのコマンド利用について	10
第 2 章 コマンド一覧	11
2.1 グループ管理系コマンド	11
2.1.1 getList	11
2.1.2 createGroup	13
2.1.3 deleteGroup	13
2.1.4 moveGroup	13
2.1.5 setGroupProperty	14
2.1.6 getGroupProperty	14
2.1.7 getGroupStatus	15
2.1.8 groupPowerOn	16
2.1.9 groupPowerOff	17
2.1.10 groupReset	18
2.1.11 groupPowerCycle	19
2.1.12 groupShutdownOs	20
2.1.13 groupSetPowerRestoreDelay	21
2.1.14 groupGetRemoteKvmLicense	22
2.2 コンポーネント管理系コマンド	23
2.2.1 getServerList	23
2.2.2 getServerNameByMacAddr	24
2.2.3 getServerNameByGuid	24
2.2.4 findNewServer	25
2.2.5 findNewServerNetAddr	26
2.2.6 createServer	27
2.2.7 deleteServer	27
2.2.8 checkConnection	28
2.2.9 setServerProperty	28
2.2.10 moveServer	30
2.2.11 getServerGroup	30
2.2.12 setCurrentPort	31
2.2.13 getServerProperty	31
2.2.14 getServerInfo	32
2.2.15 getDeviceId	33
2.2.16 getGuid	33
2.2.17 getProductName	34
2.2.18 getSoftwareInfo	34
2.2.19 setShutdownPolicy	35
2.2.20 getShutdownPolicy	36
2.2.21 setPowerRestoreDelay	36
2.2.22 getPowerRestoreDelay	37

2.2.23	setBmcInfo	38
2.2.24	getBmcInfo	46
2.2.25	setAuthKey	47
2.2.26	setSensorLevel.....	47
2.2.27	getSensorLevel	51
2.2.28	getAgentExtensionLog	52
2.2.29	testAlert	53
2.2.30	getTestAlertStatus.....	53
2.2.31	getServerStatus	54
2.2.32	getPowerStatus	55
2.2.33	getStatusLamp	55
2.2.34	getPanelInfo.....	55
2.2.35	powerOn	56
2.2.36	powerOff.....	57
2.2.37	reset	57
2.2.38	powerCycle.....	58
2.2.39	shutdownOs	59
2.2.40	dumpSwitch.....	59
2.2.41	clearSel	60
2.2.42	identifyChassis	60
2.2.43	getIpmiInfo	61
2.2.44	getSensorList	61
2.2.45	getSensorStatus.....	62
2.2.46	getConsoleLog.....	63
2.2.47	setBmcIpSync.....	63
2.2.48	getBmcIpSync	64
2.2.49	getBladeSlotId	64
2.2.50	deleteBmcUser.....	65
2.2.51	getBmcUserList	66
2.2.52	setBmcUserInfo	67
2.2.53	getBmcUserInfo.....	68
2.2.54	setPowerRestorePolicy	69
2.2.55	getPowerRestorePolicy	69
2.2.56	getSystemFtLamp.....	70
2.3	EMカード管理系コマンド	71
2.3.1	getEmCardList.....	71
2.3.2	getEmActiveState	72
2.3.3	identifyEm	72
2.3.4	getEmStatusLamp.....	73
2.4	筐体管理系コマンド	74
2.4.1	getBladeEnclosureList.....	74
2.4.2	getChassisSlotState.....	74
2.4.3	getChassisInfo	75
2.4.4	setChassisProperty	76
2.4.5	getChassisProperty	76
2.4.6	setBladeAutoSetting	77
2.4.7	getBladeAutoSetting.....	78
2.5	通信管理系コマンド	79
2.5.1	connect.....	79
2.5.2	disconnect	79
2.5.3	getConnectionStatus	79
2.6	環境設定系コマンド	80
2.6.1	setOption.....	80
2.6.2	getOption	81
2.6.3	getPermitIpAddrList.....	81

2.6.4	isPermitIpAddr	81
2.6.5	addPermitIpAddr	82
2.6.6	removePermitIpAddr	82
2.6.7	clearPermitIpAddr	82
2.7	ユーザ管理系コマンド	83
2.7.1	createUser	83
2.7.2	deleteUser	83
2.7.3	getUserList	83
2.7.4	setUserProperty	84
2.7.5	getUserProperty	85
2.8	その他のコマンド	86
2.8.1	getApplicationLog	86
2.8.2	about	86
2.8.3	help	86

商標について

EXPRESSBUILDER と ESMPRO は日本電気株式会社の登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Server は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

サンプルアプリケーションで使用している名称は、すべて架空のものです。実在する品名、団体名、個人名とは一切関係ありません。

Windows Server 2012 R2 は、Windows Server® 2012 R2 Standard、Windows Server® 2012 R2 Datacenter の略称です。

Windows Server 2012 は、Windows Server® 2012 Standard、および Windows Server® 2012 Datacenter の略称です。

Windows Server® 2008 R2 は、Windows Server® 2008 R2, Standard、Windows Server® 2008 R2, Enterprise、および Windows Server® 2008 R2, Datacenter の略称です。

Windows Server 2008 は、Windows Server® 2008 Standard、Windows Server® 2008 Enterprise、Windows Server® 2008 Datacenter、および Windows Server® 2008 Foundation の略称です。

Windows 8.1 は、Windows® 8.1 Pro 64-bit Edition、Windows® 8.1 Pro 32-bit Edition、Windows® 8.1 Enterprise 64-bit Edition、および Windows® 8.1 Enterprise 32-bit Edition の略称です。

Windows 8 は、Windows® 8 Pro、および Windows® 8 Enterprise の略称です。

Windows 7 は、Windows® 7 Professional、および Windows® 7 Ultimate の略称です。

Windows Vista は、Windows Vista® Business、Windows Vista® Enterprise、および Windows Vista® Ultimate の略称です。

Windows XP は、Windows® XP Professional operating system、および Windows® XP Professional x64 Edition operating system の略称です。

■ ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 弊社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。
- (4) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
- (5) 運用した結果の影響については(4)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

本書について

本書では、コンポーネント管理ユーティリティ「ESMPRO/ServerManager」のコマンドラインインターフェースを説明しています。

コマンドラインインターフェースをご使用になる前に本書をよくお読みになり、ユーティリティを正しくお使いになるようお願い申し上げます。

■ ご注意

本書での内容は、対象 OS の機能や操作方法およびネットワークの機能や設定方法について十分に理解されている方を対象に説明しています。対象 OS に関する操作や不明点については、各 OS のオンラインヘルプなどを参照してください。

本書では、コンポーネント全般について、汎用的に説明しています。コンポーネントの製品別の注意事項や制限事項は、コンポーネントに添付されているユーザズガイドまたは以下の URL を参照してください。

<http://www.nec.co.jp/smsa/>

本書に掲載されている画面イメージ上に記載されている名称は、すべて架空のものです。実在する品名、団体名、個人名とは一切関係ありません。また、画面イメージ上の設定値は例であり、IP アドレスなどの設定値についての動作保証を行うものではありません。

■ 本書中の記号について

本文中では次の 3 種類の記号を使用しています。それぞれの意味を示します。

- | | |
|--------------|---|
| 重要： | ソフトウェアや装置を取り扱う上で守らなければならない事柄や特に注意すべき点を示します。 |
| チェック： | ソフトウェアや装置を取り扱う上で確認しておく必要がある点を示します。 |
| ヒント： | 知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。 |

■ 本書中の書体について

本文中で使用している *イタリック体* はコマンドのオプションを示します。

■ ESMPRO/ServerManager のその他の説明について

本書に記載されていない、ESMPRO/ServerManager のその他の説明については、以下の文書を参照してください。

- ・ ESMPRO/ServerManager Ver.5 インストレーションガイド
 - ・ ESMPRO/ServerManager Ver.5 セットアップガイド
 - ・ ESMPRO/ServerManager Ver.5 コマンドラインインターフェース ユーザズガイド
- ExpressUpdate 管理編

第1章 コマンドラインインターフェースについて

ESMPRO/ServerManager コマンドラインインターフェースは ESMPRO/ServerManager が動作している装置上からコマンドラインによってコンポーネントの制御を行うことができるコマンドセットを提供します。

コマンドセットは Web ブラウザを利用して実行できる機能の一部をカバーしています。

.....

チェック：

- コマンドセットは、主にコンポーネント上の BMC または ESMPRO/ServerAgent Extension と通信して実現する機能を実行できます。コンポーネント上の ESMPRO/ServerAgent を必要とする機能はサポートしていません。
-

以下のコマンドがあります。

- **グループ管理系コマンド**
複数のコンポーネントを一括管理するためのグループに関するコマンドです。
- **コンポーネント管理系コマンド**
リモート管理対象のコンポーネントに関するコマンドです。
- **EMカード管理系コマンド**
EM カードに関するコマンドです。
- **筐体管理系コマンド**
リモート管理対象のコンポーネントまたは EM カードを搭載している筐体に関するコマンドです。
- **通信管理系コマンド**
ESMPRO/ServerManager の設定を参照したり変更したりします。
- **環境設定系コマンド**
ESMPRO/ServerManager の設定を参照したり変更したりします。
- **ユーザ管理系コマンド**
Web ブラウザ上で ESMPRO/ServerManager を使用するユーザを管理します。
- **その他のコマンド**
その他のコマンドです。

1.1 動作環境

ESMPRO/ServerManager コマンドラインインターフェースは、ESMPRO/ServerManager が動作している管理 PC 上でのみ実行可能です。

ESMPRO/ServerManager コマンドラインインターフェースを実行するためには、OS の管理者権限が必要です。

Windows の場合：Administrator 権限

Linux の場合：root 権限

チェック：

- Windows Vista/Windows 7/Windows 8/ Windows 8.1/Windows Server 2008/Windows Server 2008 R2/Windows Server 2012/Windows Server 2012 R2 では、コマンドラインインターフェース実行ファイル(dscli.exe)を含むディレクトリのアクセス許可を取得する必要があります。ディレクトリのアクセス許可を取得すると、標準ユーザも CLI を実行可能になります。
-

ヒント：

- ESMPRO/ServerManager の動作環境については「ESMPRO/ServerManager Ver.5 インストレーションガイド」を参照してください。
-

1.2 実行方法

OS のコマンドプロンプトから以下のように入力することで、コマンドの実行を行います。

```
dsccli CommandName [Option, ...]
```

dsccli	ESMPRO/ServerManager コマンドラインインターフェースのコマンドであることを示します。
CommandName	実行したいコマンド名を入力します。
Option	各コマンドで定められているオプションパラメータを入力します。

1.2.1 コマンド実行時の注意事項

以下にコマンドを入力するときの注意事項を示します。

(1) 特殊文字を入力する場合

オプションに空文字列を入力する場合や、&などの特殊文字を入力する場合は、入力文字列をダブルコーテーションで囲ってください。入力例を示します。

例 1: 空文字列の入力

```
dsccli setGroupProperty MyGroup GROUP_COMMENT ""
```

例 2: 特殊文字の入力

```
dsccli setServerProperty MyServer CFG_SERIAL_INIT "ATE1Q0V1X4&D2&C1S0=0"
```

(2) MAC アドレスを入力する場合

コマンドのオプションにある「Server」で指定できる MAC アドレスとは、コンポーネント上の BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレスです。MAC アドレスを入力する場合は、各オクテットをコロンで区切った 16 進数で入力してください。入力例を示します。

```
dsccli getServerProperty 00:30:13:16:cd:fe SERVER_IP_1
```

(3) GUID を入力する場合

GUID を入力する場合は、各セクションをコロンで区切った 16 進数で入力してください。入力例を示します。

```
dsccli getServerProperty 80c03228:35d8:d711:8001:003013f10072 SERVER_IP_1
```

チェック：

- コマンドの「Server」オプションで MAC アドレスまたは GUID を指定する入力方法は接続チェック実施後に利用可能になります。

1.3 実行結果

すべてのコマンドは終了ステータスを返します。またエラーが発生した場合は、エラーメッセージを返します。

すべてのコマンドの終了ステータスは以下の通りとなっています。

0 : 正常終了
0 以外 : 異常終了

各コマンドでエラーが発生した場合、終了ステータスとして 0 以外の値が返され、エラーメッセージが表示されます。またメッセージによってはエラー要因メッセージが後に続きます。

ヒント :

- シェルスクリプトでコマンドを実行する場合、Windows では「ERRORLEVEL」、Linux では「\$?」で終了ステータスを確認できます。
-

1.4 実行例

1 台のコンポーネントを LAN 経由で管理するためのコマンド発行手順を示します。

- (1) createGroup で グループを作成します。
- (2) createServer で コンポーネントを登録します。
- (3) checkConnection でコンポーネントの接続チェックを行います。

接続チェックが正常終了すると、ESMPRO/ServerManager でコンポーネントをリモート管理できるようになります。

1.5 複数のESMPRO/ServerManagerからのコマンド利用について

1 台のコンポーネントを複数の ESMPRO/ServerManager でリモート管理可能なのと同じく、複数の Manager サーバからコマンドの発行も可能です。

重要 :

- 注意事項に関しましては「ESMPRO/ServerManager Ver.5 インストレーションガイド」の「複数の ESMPRO/ServerManager の利用について」を参照してください。
-

第2章 コマンド一覧

2.1 グループ管理系コマンド

2.1.1 getList

Syntax:

```
dscli getList GroupName [/g] [/x]
```

Description:

指定されたグループ下に登録されているグループとコンポーネントの一覧を表示します。
付加オプションを指定しない場合は、グループ直下のグループとコンポーネントを表示します。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

ルートに存在するグループとコンポーネントについて表示する場合は”root”と指定します。

/g

“/g”オプションを指定すると、グループ名だけを表示します。

/x

“/x”オプションを指定すると、指定されたグループおよびサブグループ下の一覧を表示します。

Output:

コンポーネント・グループが以下の構成の場合の表示例を示します。

```

root
├── group1 <GROUP>
│   ├── group11 <GROUP>
│   │   └── componet111
│   └── componet11
├── group2 <GROUP>
├── component1
├── group3 <GROUP>
│   ├── group31 <GROUP>
│   │   └── componet311
│   ├── componet31
│   ├── componet32
│   └── group32 <GROUP>
│       ├── componet321
│       └── componet322
├── component2
└── component3
  
```

オプションを指定しなかった場合の表示例を示します。

```
>dscli getList root
  group1 <GROUP>
  group2 <GROUP>
  component1
  group3 <GROUP>
  component2
  component3
```

“/g”オプションを指定した場合の表示例を示します。

```
>dscli getList root /g
  group1 <GROUP>
  group2 <GROUP>
  group3 <GROUP>
```

“/x”オプションを指定した場合の表示例を示します。

```
>dscli getList root /x
root
  group1 <GROUP>
    group11 <GROUP>
      component111
    component11
  group2 <GROUP>
  component1
  group3 <GROUP>
    group31 <GROUP>
      component311
    component31
    component32
    group32 <GROUP>
      component321
      component322
  component2
  component3
```

“/g”オプションと“/x”オプションを指定した場合の表示例を示します。

```
>dscli getList root /g /x
root
  group1 <GROUP>
    group11 <GROUP>
  group2 <GROUP>
  group3 <GROUP>
    group31 <GROUP>
    group32 <GROUP>
```

2.1.2 createGroup

Syntax:

```
dscli createGroup GroupName [ParentGroupName]
```

Description:

新しいグループを作成します。

Options:

GroupName

作成するグループの名前を指定します。

最大 63 文字までの名前を入力できます。

ParentGroupName

グループの下にグループを作成する場合、親グループの名前を指定します。

ルートに作成する場合は、このオプションを指定しないか、"root"と指定します。

ヒント :

- *GroupName* に既に登録されているグループの名前は指定できません。
-

2.1.3 deleteGroup

Syntax:

```
dscli deleteGroup GroupName
```

Description:

指定されたグループを削除します。グループに所属するコンポーネント、およびサブグループもすべて削除します。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

2.1.4 moveGroup

Syntax:

```
dscli moveGroup GroupName [ParentGroupName]
```

Description:

グループを移動します。グループに所属するコンポーネント、およびサブグループもすべて移動します。

Options:

GroupName

移動したいグループの名前を指定します。

ParentGroupName

移動先の親グループの名前を指定します。

ルート下に移動する場合は、このオプションを指定しないか、"root"と指定します。

2.1.5 setGroupProperty

Syntax:

```
dsccli setGroupProperty GroupName PropertyName Value
```

Description:

指定されたグループのグループプロパティを設定します。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

PropertyName

設定するプロパティの名前を指定します。一覧を参照してください。

Value

新たに設定する値を指定します。一覧を参照してください。

PropertyName	意味	Value	初期値
GROUP_NAME	グループ名です。	63 文字まで	(なし)
GROUP_COMMENT	グループに関する説明です。	255 文字まで	(なし)

.....
ヒント:

- GROUP_NAME に既に登録されているグループ名は指定できません。
-

2.1.6 getGroupProperty

Syntax:

```
dsccli getGroupProperty GroupName PropertyName
```

Description:

指定されたグループのグループプロパティを表示します。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

PropertyName

取得するプロパティの名前を指定します。グループプロパティの一覧については 2.1.5 setGroupPropertyを参照してください。

Output:

指定されたグループプロパティを表示します。

2.1.7 getGroupStatus

Syntax:

`dsccli getGroupStatus GroupName`

Description:

指定されたグループの状態を表示します。グループ下のすべてのコンポーネント状態のうち、もっとも悪い状態をグループの状態として表示します。

コンポーネント監視機能で、コンポーネントの状態を確認します。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

Output:

指定されたグループの状態を表示します。状態には以下の種類があります。

ERROR	異常
WARNING	警告
UNKNOWN	不明、通信エラー
DC-OFF	DC-OFF
NORMAL	正常
NO_MONITORING	監視対象外

2.1.8 groupPowerOn

Syntax:

```
dsccli groupPowerOn GroupName [/p] [/exs ComponentName1 ComponentName2 ...
ComponentNameN] [/exg GroupName1 GroupName2 ... GroupNameN]
```

Description:

指定されたグループに所属するすべてのコンポーネントの電源を ON にします。
サブグループ下のコンポーネントも制御します。

重要：

- コンポーネントが強制ネットワークブート機能(ブート順位に関わらずネットワークからブートする機能)をサポートしていない場合はネットワークブートを実行できません。「ESMPRO/ServerManager コンポーネント一覧」でご確認ください。

チェック：

- このコマンドは電源ベイ、EM カード、スイッチブレードに対しては実行されません。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

ルート下のすべてのコンポーネントを制御したい場合、“root”と指定します。

/p

“/p”を指定すると、電源 ON 後、ネットワークブートを行います。

/exs

“/exs”オプションを指定し、その後に続けてコンポーネント名を指定すると、指定されたコンポーネントに対してコマンドを発行しません。コンポーネント名は複数指定することができます。

/exg

“/exg”オプションを指定し、その後に続けてグループ名を指定すると、指定されたグループ下のコンポーネントに対してコマンドを発行しません。グループは複数指定することができます。

Output:

エラーが発生した各コンポーネントについてコンポーネント名とエラーメッセージを出力します。
表示例を示します。

```
Component1
  : Connection to the server could not be made. (Timeout)
Component2
  : Connection to the server could not be made. (Authentication error)
```

2.1.9 groupPowerOff

Syntax:

```
dsccli groupPowerOff GroupName [/exs ComponentName1 ComponentName2 ...
ComponentNameN] [/exg GroupName1 GroupName2 ... GroupNameN]
```

Description:

指定されたグループに所属するすべてのコンポーネントの電源を強制的に OFF にします。
サブグループ下のコンポーネントも制御します。

重要：

- コンポーネント上の OS 状態に関わらずハードウェアで制御を行うため、システム破壊の可能性があります。コンポーネントの状態を確認の上、実行してください。

チェック：

- このコマンドは電源ベイ、EM カード、スイッチブレードに対しては実行されません。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

ルート下のすべてのコンポーネントを制御したい場合、"root"と指定します。

/exs

"/exs"オプションを指定し、その後に続けてコンポーネント名を指定すると、指定されたコンポーネントに対してコマンドを発行しません。コンポーネント名は複数指定することができます。

/exg

"/exg"オプションを指定し、その後に続けてグループ名を指定すると、指定されたグループ下のコンポーネントに対してコマンドを発行しません。グループは複数指定することができます。

Output:

エラーが発生した各コンポーネントについてコンポーネント名とエラーメッセージを出力します。
表示例を示します。

<pre>Component1 : Connection to the server could not be made. (Timeout) Component2 : Connection to the server could not be made. (Authentication error)</pre>

2.1.10 groupReset

Syntax:

```
dscli groupReset GroupName [/p] [/exs ComponentName1 ComponentName2 ...
ComponentNameN] [/exg GroupName1 GroupName2 ... GroupNameN]
```

Description:

指定されたグループに所属するすべてのコンポーネントを強制的にリセットします。
サブグループ下のコンポーネントも制御します。

重要：

- コンポーネント上の OS 状態に関わらずハードウェアで制御を行うため、システム破壊の可能性があります。コンポーネントの状態を確認の上、実行してください。
- コンポーネントが強制ネットワークブート機能(ブート順位に関わらずネットワークからブートする機能)をサポートしていない場合はネットワークブートを実行できません。「ESMPRO/ServerManager コンポーネント一覧」でご確認ください。

チェック：

- このコマンドは電源ベイ、EM カード、スイッチブレードに対しては実行されません。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

ルート下のすべてのコンポーネントを制御したい場合、"root"と指定します。

/p

"/p"を指定すると、リセット後、ネットワークブートを行います。

/exs

"/exs"オプションを指定し、その後に続けてコンポーネント名を指定すると、指定されたコンポーネントに対してコマンドを発行しません。コンポーネント名は複数指定することができます。

/exg

"/exg"オプションを指定し、その後に続けてグループ名を指定すると、指定されたグループ下のコンポーネントに対してコマンドを発行しません。グループは複数指定することができます。

Output:

エラーが発生した各コンポーネントについてコンポーネント名とエラーメッセージを出力します。
表示例を示します。

```
Component1
  : Connection to the server could not be made. (Timeout)
Component2
  : Connection to the server could not be made. (Authentication error)
```

2.1.11 groupPowerCycle

Syntax:

```
dscli groupPowerCycle GroupName [/p] [/exs ComponentName1 ComponentName2 ...
ComponentNameN] [/exg GroupName1 GroupName2 ... GroupNameN]
```

Description:

指定されたグループに所属するすべてのコンポーネントの電源を強制的に OFF にした後、ON にします。サブグループ下のコンポーネントも制御します。

重要：

- コンポーネント上の OS 状態に関わらずハードウェアで制御を行うため、システム破壊の可能性があります。コンポーネントの状態を確認の上、実行してください。
- コンポーネントが強制ネットワークブート機能(ブート順位に関わらずネットワークからブートする機能)をサポートしていない場合はネットワークブートを実行できません。「ESMPRO/ServerManager コンポーネント一覧」でご確認ください。

チェック：

- このコマンドは電源ベイ、EM カード、スイッチブレードに対しては実行されません。

Options:
GroupName

グループの名前を指定します。

ルート下のすべてのコンポーネントを制御したい場合、"root"と指定します。

/p

"p"を指定すると、電源 ON 後、ネットワークブートを行います。

/exs

"/exs"オプションを指定し、その後に続けてコンポーネント名を指定すると、指定されたコンポーネントに対してコマンドを発行しません。コンポーネント名は複数指定することができます。

/exg

"/exg"オプションを指定し、その後に続けてグループ名を指定すると、指定されたグループ下のコンポーネントに対してコマンドを発行しません。グループは複数指定することができます。

Output:

エラーが発生した各コンポーネントについてコンポーネント名とエラーメッセージを出力します。表示例を示します。

```
Component1
    : Connection to the server could not be made. (Timeout)
Component2
    : Connection to the server could not be made. (Authentication error)
```

2.1.12 groupShutdownOs

Syntax:

```
dscli groupShutdownOs GroupName [/force] [/exs ComponentName1
ComponentName2 ... ComponentNameN] [/exg GroupName1 GroupName2 ... GroupNameN]
```

Description:

指定されたグループに所属するすべてのコンポーネント上の OS をシャットダウンします。

サブグループ下のコンポーネントも制御します。

LAN 経由で実行する場合は、コンポーネント上で ESMPRO/ServerAgent Extension のサービスが動作しているときに実行できます。

“/force”オプションを指定した場合は、接続形態に関わらず、強制シャットダウンを行います。このとき ESMPRO/ServerAgent Extension とは通信を行いません。

ダイレクト接続またはモデム接続では、“/force”オプション指定時のみ実行できます。

チェック:

- このコマンドは電源ベイ、EM カード、スイッチブレードに対しては実行されません。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

ルート下のすべてのコンポーネントを制御したい場合、“root”と指定します。

/force

“/force”を指定すると、強制シャットダウンを実行します。OS の種類や設定によっては正しくシャットダウンされない可能性があります。

/exs

“/exs”オプションを指定し、その後に続けてコンポーネント名を指定すると、指定されたコンポーネントに対してコマンドを発行しません。コンポーネント名は複数指定することができます。

/exg

“/exg”オプションを指定し、その後に続けてグループ名を指定すると、指定されたグループ下のコンポーネントに対してコマンドを発行しません。グループは複数指定することができます。

Output:

エラーが発生した各コンポーネントについてコンポーネント名とエラーメッセージを出力します。表示例を示します。

```
Component1
: Connection to the server could not be made. (Timeout)
Component2
: Connection to the server could not be made. (Authentication error)
```

2.1.13 groupSetPowerRestoreDelay

Syntax:

```
dscli groupSetPowerRestoreDelay GroupName DelayTime [/x Policy] [/exs
ComponentName1 ComponentName2 ... ComponentNameN] [/exg GroupName1
GroupName2 ... GroupNameN]
```

Description:

指定されたグループに所属するすべてのコンポーネントについて、コンポーネントが AC ON されたときの動作を指定する電源オプション設定を変更します。

サブグループ下のコンポーネントも制御します。

電源オプション設定では、AC-LINK 設定、および、AC-LINK 設定が AC ON 時に連動して電源 ON(DC ON)する設定になっているときの AC ON から DC ON までの間隔を指定できます。

重要:

- コンポーネントが電源オプション設定機能をサポートしていない場合は実行できません。「ESMPRO/ServerManager コンポーネント一覧」でご確認ください。

チェック:

- このコマンドは電源ベイ、EM カード、スイッチブレードに対しては実行されません。
- EXPRESSSCOPE エンジン 3 搭載ブレードサーバに対しては、指定された遅延時間の設定を行いません。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

ルート下のすべてのコンポーネントを制御したい場合、"root"と指定します。

DelayTime

AAA ~ 600	AC ON から DC ON までの間隔を秒単位で指定します。 AAA はコンポーネントの設定可能最小値
-1	AC ON から DC ON までの間隔を変更しないときに指定します。
RANDOM	AC ON から DC ON までの間隔をランダムに指定します。 ランダム設定機能をサポートしているコンポーネントの場合、ランダムを指定できます。

/x Policy

AC-LINK を設定します。Policy に設定可能な値は 3 種類です。

STAY_OFF	AC ON 時、DC OFF 状態になります。
LAST_STATE	DC OFF 中に AC OFF された場合は、AC ON 時、DC OFF 状態になります。 DC ON 中に AC OFF された場合は、AC ON 時、DelayTime オプションで設定された時間後に DC ON 状態になります。
POWER_ON	AC ON 時、DelayTime オプションで設定された時間後に DC ON 状態になります。

"/exs"

"/exs"オプションを指定し、その後続けてコンポーネント名を指定すると、指定されたコンポーネントに対してコマンドを発行しません。コンポーネント名は複数指定することができます。

“/exg”

“/exg”オプションを指定し、その後に続けてグループ名を指定すると、指定されたグループ下のコンポーネントに対してコマンドを発行しません。グループは複数指定することができます。

Output:

エラーが発生した各コンポーネントについてコンポーネント名とエラーメッセージを出力します。表示例を示します。

```
Component1
    : Connection to the server could not be made. (Timeout)
Component2
    : Connection to the server could not be made. (Authentication error)
```

2.1.14 groupGetRemoteKvmLicense

Syntax:

dscli groupGetRemoteKvmLicense *GroupName*

Description:

指定されたグループに所属する各コンポーネントについて、リモートマネージメント拡張ライセンスの登録状況を表示します。

サブグループ下のコンポーネントについても表示します。

Options:

GroupName

グループの名前を指定します。

ルート下のすべてのコンポーネントを表示したい場合、“root”と指定します。

Output:

各コンポーネントについて、リモートマネージメント拡張ライセンスの登録状況を以下のように表示します。

Installed	リモートマネージメント拡張ライセンスが登録されています。
Not Installed	リモートマネージメント拡張ライセンスが登録されていません。
Unsupported	リモートマネージメント拡張ライセンスの対象ではありません。
-	リモートマネージメント拡張ライセンスの登録状況を取得できませんでした。

表示例を示します。

```
Component1
    : Installed
Component2
    : Installed
Component3
    : Not Installed
Component4
    : Unsupported
Component5
    : -
:
:
```

2.2 コンポーネント管理系コマンド

2.2.1 getServerList

Syntax:

```
dscli getServerList [/d]
```

Description:

ESMPRO/ServerManager 上に登録されたコンポーネントの一覧を表示します。

Options:

/d

“/d”を指定すると、コンポーネントの一覧に、コンポーネント名その他 GUID、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレスを表示します。また、以下の付加情報を表示します。

- ・ BMC が EXPRESSSCOPE エンジンシリーズ の場合「EXPRESSSCOPE Engine」と表示します。
- ・ コンポーネント上の BMC がアドバンスドリモートマネジメントカードの場合「ARMC」と表示します。
- ・ 管理対象が Switch Blade である場合 「SWB」と表示します。

Output:

ESMPRO/ServerManager 上に登録されたコンポーネントの一覧を表示します。表示例を示します。

(“/d”オプションを指定しない場合)

```
Component1
Component2
Component3
:
:
```

(“/d”オプションを指定した場合)

```
Component1
GUID  02010202:0000:0000:0000:000000000000
MAC1  00:30:13:f1:00:5a
MAC2  00:30:13:f1:00:5b
EXPRESSSCOPE Engine

Component2
GUID  00301316:cdfe:0180:0010:846e8062d906
MAC1  00:30:13:16:cd:fe
SWB

Component3
GUID  00010203:0405:0607:0809:0a0b0c0d0e0f
MAC1  00:00:4c:9f:13:cb
ARMC
:
:
```

2.2.2 getServerNameByMacAddr

Syntax:

```
dscli getServerNameByMacAddr MacAddress
```

Description:

指定された MAC アドレスに対応するコンポーネント名を表示します。

Options:

MacAddress

コンポーネント上の BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレスを指定します。

実行例を示します。

```
dscli getServerNameByMacAddr 00:30:13:f1:00:5a
```

Output:

コンポーネント名を表示します。表示例を示します。

```
Component1
```

2.2.3 getServerNameByGuid

Syntax:

```
dscli getServerNameByGuid GUID
```

Description:

指定された GUID に対応するコンポーネント名を表示します。

Options:

GUID

GUID を指定します。

実行例を示します。

```
dscli getServerNameByGuid 00301316:cdfe:0180:0010:846e8062d906
```

Output:

コンポーネント名を表示します。表示例を示します。

```
Component2
```

2.2.4 findNewServer

Syntax:

```
dscli findNewServer StartIpAddr EndIpAddr
```

Description:

ESMPRO/ServerManager 上に登録されていないコンポーネントの BMC をネットワーク上から検索します。指定された IP アドレス範囲のコンポーネント(BMC)を検索します。

ヒント:

- findNewServer 、 findNewServerNetAddr で見つかったコンポーネントを ESMPRO/ServerManager に登録する場合、createServer を使用します。2.2.6 createServer を参照してください。

Options:

StartIpAddr

IP アドレス範囲の開始 IP アドレスを指定します。

EndIpAddr

IP アドレス範囲の終了 IP アドレスを指定します。

Output:

発見したコンポーネントの一覧を表示します。表示例を示します。

```
Status: SUCCESS

No.1
1st IP Address      : 192.168.14.18
2nd IP Address      : 0.0.0.0
Current IP Address  : 192.168.14.18
IPMI Version        : 1.5
GUID                : 84ee20b0:84a1:d511:0080:a0f94470300

No.2
1st IP Address      : 192.168.14.19
2nd IP Address      : 0.0.0.0
Current IP Address  : 192.168.14.19
IPMI Version        : 1.5
GUID                : 00004c79:45c0:0180:0010:f57f80d8cef8
:
:
```

2.2.5 findNewServerNetAddr

Syntax:

`dscli findNewServerNetAddr NetAddr NetMask`

Description:

ESMPRO/ServerManager 上に登録されていないコンポーネントの BMC をネットワーク上から検索して表示します。指定されたネットワークアドレスによりコンポーネントを検索します。

.....
ヒント:

- findNewServer 、 findNewServerNetAddr で み つ か っ た コ ン ポ ー ネ ント を ESMPRO/ServerManagerに登録する場合、createServerを使用します。2.2.6 createServerを参照してください。
-

Options:

NetAddr

ネットワークアドレスを指定します。

NetMask

ネットワークマスクを指定します。

Output:

発見したコンポーネント一覧を表示します。表示内容はfindNewServerと同じです。2.2.4 findNewServerを参照してください。

2.2.6 createServer

Syntax:

```
dscli createServer ComponentName GroupName AuthKey [IpAddr1] [IpAddr2]
```

Description:

ESMPRO/ServerManager に新規にコンポーネントを登録します。

Options:

ComponentName

ESMPRO/ServerManager 上でコンポーネントを管理するための名前（コンポーネント名）を指定します。

最大 63 バイトまでの名前を入力できます。

GroupName

コンポーネントの所属グループを指定します。

AuthKey

コンポーネントの認証キーを指定します。16 文字までの認証キーを指定してください。

コンポーネントの BMC コンフィグレーションで設定した認証キーを入力してください。

IpAddr1

コンポーネントの BMC の IP アドレスを指定します。コンポーネントと LAN 経由で通信しない場合、このオプションは省略できます。

IpAddr2

コンポーネントの BMC の予備の IP アドレスを指定します。このオプションは省略できます。

.....
ヒント :

- *ServerName* に既に登録されているコンポーネントの名前は指定できません。
 - *IpAddr1*、*IpAddr2* に既に登録されている IP アドレスは指定できません。
 - プロパティのその他の項目は、2.2.9 *setServerProperty* で設定してください。
-

2.2.7 deleteServer

Syntax:

```
dscli deleteServer Component [/force]
```

Description:

ESMPRO/ServerManager に登録されたコンポーネントを削除します。

Options:

Server

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

/force

スケジュール運転設定済みのコンポーネントを削除するときは、ESMPRO/ServerAgent Extension からスケジュールを削除しますが、スケジュール削除に失敗した場合 (ESMPRO/ServerAgent Extension がアンインストールされている等)は、コンポーネントを削除できません。このとき、“/force”を指定すると、コンポーネントを強制的に削除します。

2.2.8 checkConnection

Syntax:

```
dscli checkConnection Component [/force]
```

Description:

コンポーネントの BMC と通信して接続確認を行います。また、リモート管理のために必要な情報をコンポーネントから収集します。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

/force

コンポーネントを置き換えた場合は"/force"を指定して接続確認を行ってください。

チェック：

- ESMPRO/Server Manager がコンポーネントの EMSPRO も管理している場合、"/force"を指定すると、ESMPRO 通信と BMC 通信で異なるコンポーネントに通信することがあります。

2.2.9 setServerProperty

Syntax:

```
dscli setServerProperty Component PropertyName Value
```

Description:

プロパティを変更します。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

PropertyName

設定するプロパティの名前を指定します。一覧を参照してください。

Value

新たに設定する値を指定します。一覧を参照してください。

PropertyName	意味	Value	初期値
CONSOLE_LOG_ENABLE	コンソールログ取得の有効 / 無効を示します。コンソールログは、リモートコンソールの画面データをテキスト形式で保存する機能です。	0: 無効 1: 有効	1
CONSOLE_LOG_SIZE	コンソールログの最大容量を KB 単位で指定します。	4 - 1000	64

PropertyName	意味	Value	初期値
CONSOLE_LOG_KEEP_CONNECTION	Web ブラウザでリモートコンソールを開いていない時でもコンソールログ取得を行う機能の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0
CONSOLE_LOG_FAULT_MESSAGE_MONITORING	コンソールログに対する障害メッセージ監視の有効 / 無効を示します。障害メッセージ監視は、コンソールログに記録される各行の先頭に障害メッセージ識別子が検出された場合に、そのコンポーネントの障害状態をセットする機能です。	0: 無効 1: 有効	1
CONSOLE_LOG_FAULT_MESSAGE_IDENTIFIER	障害メッセージ監視のための文字列（障害メッセージ識別子）を指定します。	20 文字まで	</BP>
SERVER_NAME *1	コンポーネントの表示名です。	63 バイトまで	(なし)
SERVER_AUTHKEY *1	コンポーネントの BMC と通信するための認証キーです。	16 文字まで	(なし)
SERVER_CURRENT_PORT_TYPE	ESMPRO/ServerManager からコンポーネントへの通信の接続形態を指定します。EM カードの場合、LAN 以外は指定できません。	0: LAN 1: ダイレクト 2: モデム	0
SERVER_IP_1 *1	LAN 接続のための BMC IP アドレスです。	IP アドレス形式	0.0.0.0
SERVER_IP_2	LAN 接続のための予備の BMC IP アドレスです	IP アドレス形式	0.0.0.0
SERVER_CURRENT_IP *1	LAN 接続のための現在使用中の BMC IP アドレスです。	IP アドレス形式	0.0.0.0
SERVER_SUBNETMASK_1 *1	LAN 接続の BMC IP アドレスのサブネットマスクです。	IP アドレス形式	255.255.255.0
SERVER_SUBNETMASK_2	LAN 接続の予備の BMC IP アドレスのサブネットマスクです	IP アドレス形式	255.255.255.0
SERVER_PHONE_NUMBER	モデム接続を行うための電話番号です。	19 文字まで	空白
SERVER_ALIAS *1	コンポーネントの別名です。	255 バイトまで	(コンポーネント名と同じ)

*1 EM カードに対しても設定可能なプロパティです。

ヒント:

- SERVER_NAME に既に登録されているコンポーネントの名前は指定できません。
- SERVER_IP_1、SERVER_IP_2 に既に登録されている IP アドレスは指定できません。
- コンポーネントが所属するグループを変更する場合は 2.2.10 moveServer を使用してください。

2.2.10 moveServer

Syntax:

`dscli moveServer Component GroupName`

Description:

コンポーネントの所属グループを変更します。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

GroupName

新しいグループの名前を指定します。
ルート下に移動する場合は、"root"と指定します。

2.2.11 getServerGroup

Syntax:

`dscli getServerGroup Component`

Description:

コンポーネントが所属するグループ名を表示します。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

コンポーネントが所属するグループ名を表示します。
ルートに存在する場合は"root"と表示します。

2.2.12 setCurrentPort

Syntax:

`dscli setCurrentPort Component Connection`

Description:

コンポーネントとの接続形態を変更します。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Connection

コンポーネントと通信を行う接続形態を指定します。

LAN	LAN 経由で接続
SERIAL	シリアルポートをダイレクト接続
MODEM	モデム経由で接続

2.2.13 getServerProperty

Syntax:

`dscli getServerProperty Component PropertyName`

Description:

コンポーネントの指定されたプロパティを表示します。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

PropertyName

取得するプロパティの名前を指定します。2.2.9 setServerPropertyを参照してください。

Output:

コンポーネントの指定されたプロパティを表示します。

2.2.14 getServerInfo

Syntax:

```
dsccli getServerInfo Component
```

Description:

指定されたコンポーネントについて、主なプロパティの項目を表示します。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

指定されたコンポーネントについて、主なプロパティの項目を表示します。

表示される情報を示します。

項目名	意味
Component Name	コンポーネントの名前です。
Alias	コンポーネントの別名です。
Group	コンポーネントが所属するグループ名です。
Connection Type	コンポーネントとの接続形態です。
BMC Control	BMC 管理の状態を示します。 Enable : 管理有効 Disable : 管理無効 Not Registered : 管理未登録 Not Support : 管理対象外 (BMC 未搭載装置)
Check Connection	接続チェックを実施済みの場合は Completed と表示します。
BMC Current IP Address	LAN 接続のための現在使用中のコンポーネントの BMC IP アドレスです。
Failover	BMC の片方の IP アドレスへの通信がエラーになった場合にもう一方の IP アドレスに切り替えて通信を続行するフェイルオーバー機能の有効 / 無効を示します。
BMC LAN1 IP Address	LAN 接続のためのコンポーネントの BMC の IP アドレスです。
BMC LAN1 Subnet Mask	LAN 接続のためのコンポーネントの BMC のサブネットマスクです。
BMC LAN2 IP Address	LAN 接続のためのコンポーネントの BMC の予備の IP アドレスです。
BMC LAN2 Subnet Mask	LAN 接続のためのコンポーネントの BMC の予備の IP アドレスのサブネットマスクです。
Phone Number	コンポーネントの電話番号です。
Product Name	コンポーネントの製品名です。
Serial Number	コンポーネントの号機番号です。
GUID	コンポーネントの個体識別用 ID です。
IPMI Version	コンポーネントの IPMI バージョンです。
Remote KVM and Media License	コンポーネントのリモートマネジメント拡張ライセンスの登録状況です。この項目はコンポーネントが EXPRESSSCOPE エンジンを搭載している場合のみ表示されます。 出力内容については、2.1.14groupGetRemoteKvmLicenseの説明を参照してください。
Chassis Name	コンポーネントが搭載されている筐体名。コンポーネントが CPU ブレードまたはスイッチブレードの場合に表示します。
Slot Number	コンポーネントが搭載されているスロット番号。コンポーネントが CPU ブレードまたはスイッチブレードの場合に表示します。
Blade Width	ブレードの幅。スロット枚数で示します。コンポーネントが CPU ブレードまたはスイッチブレードの場合に表示します。

Blade Height	ブレードの高さ。スロット枚数で示します。コンポーネントがブレード高の情報を持っている場合に表示されます。
Blade Name	ブレード名。コンポーネントがブレード名の情報を持っている場合に表示されます。

2.2.15 getDeviceId

Syntax:

```
dscli getDeviceId Component
```

Description:

コンポーネントのマネージメントコントローラ情報を取得して表示します。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

デバイス ID の表示例を示します。

Device ID	: 20H
Device Rev.	: 1
Fw Rev.	: 00.08
Manufacturer ID	: 119
Product ID	: 2c3H

2.2.16 getGuid

Syntax:

```
dscli getGuid Component
```

Description:

コンポーネントの GUID を取得して表示します。GUID は個体識別用の ID です。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

GUID を表示します。

2.2.17 getProductName

Syntax:

dscli getProductName *Component*

Description:

コンポーネントの製品名と号機番号を取得して表示します。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

以下の情報を表示します。

ProductName	コンポーネントの製品名
SerialNumber	コンポーネントの号機番号

2.2.18 getSoftwareInfo

Syntax:

dscli getSoftwareInfo *Component*

Description:

コンポーネント上の Agent 拡張バージョン(ESMPRO/ServerAgent Extension のバージョン)、OS のバージョン、BIOS のバージョンを取得して表示します。このコマンドはコンポーネント上で ESMPRO/ServerAgent Extension のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

バージョン情報を表示します。表示例を示します。

Agent Extension Version:	2.03.04
BIOS Version	: 6.0.0106
OS Version	: Windows 2003 Server

2.2.19 setShutdownPolicy

Syntax:

dscli setShutdownPolicy *Component* *KeyName* *Value*

Description:

コンポーネント上の ESMPRO/ServerAgent Extension のシャットダウン設定を変更します。このコマンドはコンポーネント上で ESMPRO/ServerAgent Extension のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

KeyName

変更するシャットダウン設定項目を示すキー名を指定します。一覧を参照してください。

Value

新たに設定する値を指定します。一覧を参照してください。

KeyName	意味	Value
SCH_ACLINK_STAYON_ENABLE	スケジュール運転による OS シャットダウンを実行する際に AC-LINK を Always Power On に設定	0: 無効, 1: 有効
SCH_AC_LINK	AC-LINK 設定値 (setPowerRestoreDelay コマンドと同じ働きをします) 表示のみ。設定はできません。	-
SCH_DC_OFF_ENABLE	OS シャットダウン後に強制電源 OFF を実行 (OS シャットダウン後も電源 ON 状態のままとなるコンポーネントの場合、有効に設定することで ESMPRO/ServerAgent Extension がコンポーネントを OS シャットダウンする時に電源も OFF にします。)	0: 無効 1: 有効
SCH_DC_OFF_DELAY	SCH_DC_OFF_ENABLE が有効の場合、OS シャットダウン後の強制電源 OFF までの時間 (分)	5 - 60
SCH_SHUTDOWN_ENABLE	スケジュール運転で指定された休止期間中に電源 ON されたときに、自動シャットダウンを実行	0: 無効 1: 有効
SCH_SHUTDOWN_WAIT	OS シャットダウンコマンド実行から、実際に OS シャットダウンが開始されるまでの猶予時間 (秒) 表示のみ。設定はできません。	-

2.2.20 getShutdownPolicy

Syntax:

```
dscli getShutdownPolicy Component
```

Description:

コンポーネント上の ESMPRO/ServerAgent Extension のシャットダウン設定を取得して表示します。このコマンドはコンポーネント上で ESMPRO/ServerAgent Extension のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

シャットダウン設定を表示します。詳細は、2.2.19 setShutdownPolicyを参照してください。表示例を示します。

```
SCH_ACLINK_STAYON_ENABLE=0
SCH_AC_LINK=1
SCH_DC_OFF_ENABLE=1
SCH_DC_OFF_DELAY=10
SCH_SHUTDOWN_ENABLE=1
SCH_SHUTDOWN_WAIT=60
```

2.2.21 setPowerRestoreDelay

Syntax:

```
dscli setPowerRestoreDelay Component DelayTime [/x Policy]
```

Description:

コンポーネントが AC ON されたときの動作を指定する電源オプション設定を変更します。電源オプション設定では、AC-LINK 設定、および、AC-LINK 設定が AC ON 時に連動して電源 ON(DC ON)する設定になっているときの AC ON から DC ON までの間隔を指定できます。

重要：

- コンポーネントが電源オプション設定機能をサポートしていない場合は実行できません。「ESMPRO/ServerManager コンポーネント一覧」でご確認ください。

チェック：

- EXPRESSSCOPE エンジン 3 搭載ブレードサーバに対しては、指定された遅延時間の設定を行いません。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

DelayTime

- AAA ~ BBB AC ON から DC ON までの間隔を秒単位で指定します。
 AAA はコンポーネントの設定可能最小値
 コンポーネントが EXPERSSCOPE エンジン 3 を搭載している場合、BBB は 600
 コンポーネントが EXPERSSCOPE エンジン 3 を搭載していない場合、BBB は
 255
- 1 AC ON から DC ON までの間隔を変更しないときに指定します。
- RANDOM AC ON から DC ON までの間隔をランダムに指定します。
 ランダム設定機能をサポートしているコンポーネントの場合指定できます。

/x Policy

AC-LINK を設定します。Policy に設定可能な値は 3 種類です。

- STAY_OFF AC ON 時、DC OFF 状態になります。
- LAST_STATE DC OFF 中に AC OFF された場合は、AC ON 時、DC OFF 状態になります。
 DC ON 中に AC OFF された場合は、AC ON 時、DelayTime オプションで設定され
 た時間後に DC ON 状態になります。
- POWER_ON AC ON 時、DelayTime オプションで設定された時間後に DC ON 状態になります。

2.2.22 getPowerRestoreDelay**Syntax:**

```
dscli getPowerRestoreDelay Component
```

Description:

コンポーネントが AC ON されたときの動作を指定する電源オプション設定の内容を取得して表示
 します。

電源オプション設定の詳細は 2.2.21 setPowerRestoreDelay を参照してください。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定
 します。

Output:

電源オプション設定を表示します。表示例を示します。

Policy	: LAST_STATE
Delay Time	: RANDOM
Delay Time Range	: 45 - 600 sec

2.2.23 setBmcInfo

Syntax:

```
dsccli setBmcInfo Component KeyName Value [/x ModuleNo]
```

Description:

コンポーネントの BMC コンフィグレーション情報を変更します。BMC の種類によってサポートしているパラメータが異なります。

ヒント:

- 認証キーおよびモデム経由通報の通報先パスワードを変更する場合は setAuthKey を使用します。2.2.25 setAuthKey を参照してください。
- CFG_MAIL_ALERT_LEVEL、CFG_SNMP_ALERT_LEVEL のセンサ個別レベルを変更する場合は setSensorLevel を使用します。2.2.26 setSensorLevel を参照してください。
- CFG_NETWORK_SHARED_BMC_LAN 、 CFG_NETWORK_BMC_MAC 、 CFG_NETWORK_GUID は変更できません。getBmcInfo で使用します。2.2.24 getBmcInfo を参照してください。

Options:
Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

KeyName

変更する BMC コンフィグレーション項目を示すキー名を指定します。一覧を参照してください。

Value

新たに設定する値を指定します。一覧を参照してください。

/x ModuleNo

コンポーネントがフォールト・トレラント・サーバの場合に CPU/IO モジュールの番号 (0 または 1) を指定します。このパラメータはネットワーク設定項目についてのみ有効です。ModuleNo を指定しない場合はネットワーク設定項目について CPU/IO モジュール 0 の設定を変更します。

その他の項目は、このパラメータにかかわらず両系の設定を変更します。

コンポーネントが EXPRESSSCOPE エンジン SP3 搭載サーバ (2BMC モデル) の場合に Master (0) または StandBy (1) を指定します。このパラメータはネットワークパラメータ設定項目についてのみ有効です。

ModuleNo を指定しない場合はネットワークパラメータ設定項目について Master (0) として設定変更を行います。

KeyName	意味	Value
CFG_COMPUTER_NAME	共通: コンピュータ名	15 文字まで
CFG_COMMUNITY	共通: コミュニティ名	16 文字まで
CFG_ALERT_ALL	共通: 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_POLICY	共通: 通報手順	1: 1 つの通報先のみ 2: すべての通報先
CFG_ALERT_ACKNOWLEDGE	共通: 通報応答確認	0: 無効 1: 有効

KeyName	意味	Value
CFG_ALERT_LEVEL	共通：通報レベル	0: 通報なし 1 - 6: 通報レベル 1 - 6
CFG_LAN_CONTROL_LAN1	共通：リモート制御 (LAN1)	0: 無効 1: 有効
CFG_SERIAL_CONTROL	共通：リモート制御 (WAN/ダイレクト)	0: 無効 1: 有効
CFG_LAN_REDIRECTION	共通：リダイレクション (LAN)	0: 無効 1: 有効
CFG_SERIAL_REDIRECTION	共通：リダイレクション (WAN/ダイレクト)	0: 無効 1: 有効
CFG_LAN_CONTROL_LAN2	共通：リモート制御 (LAN2)	0: 無効 1: 有効
CFG_LAN_ALERT_POLICY_LAN	共通：LAN 通報設定 LAN1/LAN2 優先	0: LAN1 優先 1: LAN2 優先
CFG_LAN_ALERT_POLICY_DESTINATION	共通：LAN 通報設定 LAN/通報先 優先	0: LAN 優先 1: 通報先優先
CFG_DHCP	LAN1:IP アドレスを自動的に取得する (DHCP)	0: 無効 1: 有効
CFG_LAN_IP_LAN1	LAN1:IP アドレス	IP アドレス形式
CFG_LAN_SUBNET_LAN1	LAN1:サブネットマスク	IP アドレス形式
CFG_LAN_GATEWAY_LAN1	LAN1:デフォルトゲートウェイ	IP アドレス形式
CFG_LAN_MANAGE1_ALERT_LAN1	LAN1: 1 次 通報 先 / 管理 用 PC(1) 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_LAN_MANAGE1_IP_LAN1	LAN1: 1 次 通報 先 / 管理 用 PC(1) IP アドレス	IP アドレス形式
CFG_LAN_MANAGE2_ALERT_LAN1	LAN1: 2 次 通報 先 / 管理 用 PC(2) 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_LAN_MANAGE2_IP_LAN1	LAN1: 2 次 通報 先 / 管理 用 PC(2) IP アドレス	IP アドレス形式
CFG_LAN_MANAGE3_ALERT_LAN1	LAN1: 3 次 通報 先 / 管理 用 PC(3) 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_LAN_MANAGE3_IP_LAN1	LAN1: 3 次 通報 先 / 管理 用 PC(3) IP アドレス	IP アドレス形式
CFG_LAN_ALERT_RETRY_COUNT_LAN1	LAN1:通報リトライ回数	0 - 7
CFG_LAN_ALERT_RETRY_TIMEOUT_LAN1	LAN1:通報タイムアウト (秒単位)	3 - 30
CFG_DHCP_LAN2	LAN2:IP アドレスを自動的に取得する (DHCP)	0: 無効 1: 有効

KeyName	意味	Value
CFG_LAN_IP_LAN2	LAN2:IP アドレス	IP アドレス形式
CFG_LAN_SUBNET_LAN2	LAN2:サブネットマスク	IP アドレス形式
CFG_LAN_GATEWAY_LAN2	LAN2:デフォルトゲートウェイ	IP アドレス形式
CFG_LAN_MANAGE1_ALERT_LAN2	LAN2: 1 次 通 報 先 / 管 理 用 PC(1) 通 報	0: 無効 1: 有効
CFG_LAN_MANAGE1_IP_LAN2	LAN2: 1 次 通 報 先 / 管 理 用 PC(1) IP アドレス	IP アドレス形式
CFG_LAN_MANAGE2_ALERT_LAN2	LAN2: 2 次 通 報 先 / 管 理 用 PC(2) 通 報	0: 無効 1: 有効
CFG_LAN_MANAGE2_IP_LAN2	LAN2: 2 次 通 報 先 / 管 理 用 PC(2) IP アドレス	IP アドレス形式
CFG_LAN_MANAGE3_ALERT_LAN2	LAN2: 3 次 通 報 先 / 管 理 用 PC(3) 通 報	0: 無効 1: 有効
CFG_LAN_MANAGE3_IP_LAN2	LAN2: 3 次 通 報 先 / 管 理 用 PC(3) IP アドレス	IP アドレス形式
CFG_LAN_ALERT_RETRY_COUNT_LAN2	LAN2:通報リトライ回数	0 - 7
CFG_LAN_ALERT_RETRY_TIMEOUT_LAN2	LAN2:通報タイムアウト (秒単位)	3 - 30
CFG_SERIAL_MODE	WAN/ダイレクト : モード	1: ダイレクト 2: モデム
CFG_SERIAL_BAUDRATE	WAN/ダイレクト : ボーレート	1: 9600bps 2: 19.2Kbps 3: 57.6Kbps 4: 115.2Kbps
CFG_SERIAL_FLOW_CONTROL	WAN/ダイレクト : フロー制御	1: なし 2: RTS/CTS 3: XON/XOFF
CFG_SERIAL_DIAL_MODE	WAN/ダイレクト : ダイヤルモード	1: パルス 2: トーン
CFG_SERIAL_INIT	WAN/ダイレクト : 初期化コマンド	48 文字まで
CFG_SERIAL_HANG_UP	WAN/ダイレクト : ハングアップコマンド	8 文字まで
CFG_SERIAL_DTR_HANG_UP	WAN/ダイレクト : DTR ハングアップ	0: 無効 1: 有効
CFG_SERIAL_ESCAPE_CODE	WAN/ダイレクト : エスケープコード	1 文字
CFG_SERIAL_DIAL_RETRY_COUNT	WAN/ダイレクト : 通報設定 ダイヤルリ トライ回数	0 - 7

KeyName	意味	Value
CFG_SERIAL_DIAL_RETRY_INTERVAL	WAN/ダイレクト： 通報設定 ダイアル間 隔 (秒単位)	60 - 240
CFG_SERIAL_ALERT_RETRY_COUNT	WAN/ダイレクト： 通報設定 通報リトラ イ回数	0 - 7
CFG_SERIAL_ALERT_RETRY_INTERVAL	WAN/ダイレクト： 通報設定 通報タイム アウト(秒単位)	3 - 30
CFG_SERIAL_ALERT_PPP1	WAN/ダイレクト： 通報設定 PPP コンポ ーネント 1 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_SERIAL_DIAL_NUMBER_PPP1	WAN/ダイレクト： 通報設定 PPP コンポ ーネント 1 電話番号	19 文字まで
CFG_SERIAL_USER_ID_PPP1	WAN/ダイレクト： 通報設定 PPP コンポ ーネント 1 ユーザ ID	16 文字まで
CFG_SERIAL_DOMAIN_PPP1	WAN/ダイレクト： 通報設定 PPP コンポ ーネント 1 ドメイン	16 文字まで
CFG_SERIAL_ALERT_PPP2	WAN/ダイレクト： 通報設定 PPP コンポ ーネント 2 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_SERIAL_DIAL_NUMBER_PPP2	WAN/ダイレクト： 通報設定 PPP コンポ ーネント 2 電話番号	19 文字まで
CFG_SERIAL_USER_ID_PPP2	WAN/ダイレクト： 通報設定 PPP コンポ ーネント 2 ユーザ ID	16 文字まで
CFG_SERIAL_DOMAIN_PPP2	WAN/ダイレクト： 通報設定 PPP コンポ ーネント 2 ドメイン	16 文字まで
CFG_SERIAL_MANAGE1_IP	WAN/ダイレクト： 通報設定 1 次通報先	IP アドレス形式
CFG_SERIAL_MANAGE2_IP	WAN/ダイレクト： 通報設定 2 次通報先	IP アドレス形式
CFG_SERIAL_MANAGE3_IP	WAN/ダイレクト： 通報設定 3 次通報先	IP アドレス形式
CFG_PAGER_MANAGE1_ALERT	ページャ： 1 次通報先 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_PAGER_MANAGE1_DIAL_NUMBER	ページャ： 1 次通報先 電話番号	19 文字まで
CFG_PAGER_MANAGE2_ALERT	ページャ： 2 次通報先 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_PAGER_MANAGE2_DIAL_NUMBER	ページャ： 2 次通報先 電話番号	19 文字まで
CFG_PAGER_MESSAGE	ページャ： ページャメッセージ	29 文字まで
CFG_PAGER_TIMEOUT	ページャ： ガイドメッセージ待 ち時間(2 秒単位)	0 - 30

KeyName	意味	Value
CFG_NETWORK_SHARED_BMC_LAN	ネットワーク プロパティ： 管理用 LAN 設定 管理 用 LAN	0:Management LAN 1:Shared System LAN
CFG_NETWORK_CONNECTION_TYPE	ネットワーク プロパティ： 基本設定 通信タイプ	0: Auto Negotiation 1: 100Mbps Full Duplex 2: 100Mbps Half Duplex 3: 10Mbps Full Duplex 4: 10Mbps Half Duplex 5: 1Gbps Full Duplex 6: 1Gbps Half Duplex
CFG_NETWORK_BMC_MAC	ネットワーク プロパティ： BMC MAC アドレス	MAC アドレス形式
CFG_NETWORK_DHCP	ネットワーク プロパティ： 基本設定 DHCP	0: 無効 1: 有効
CFG_NETWORK_IP_LAN	ネットワーク プロパティ： 基本設定 IP アドレス	IP アドレス形式
CFG_NETWORK_SUBNET_LAN	ネットワーク プロパティ： 基本設定 サブネット マスク	IP アドレス形式
CFG_NETWORK_GATEWAY_LAN	ネットワーク プロパティ： 基本設定 デフォルト ゲートウェイ	IP アドレス形式
CFG_NETWORK_DYNAMIC_DNS	ネットワーク プロパティ： 基本設定 ダイナミッ ク DNS	0: 無効 1: 有効
CFG_NETWORK_DNS_SERVER	ネットワーク プロパティ： 基本設定 DNS サーバ	IP アドレス形式
CFG_NETWORK_HOST_NAME	ネットワーク プロパティ： 基本設定 ホスト名	ホスト名とドメイ ン名合わせて 255 文字まで
CFG_NETWORK_DOMAIN_NAME	ネットワーク プロパティ： 基本設定 ドメイン名	ホスト名とドメイ ン名合わせて 255 文字まで
CFG_NETWORK_GUID	ネットワーク プロパティ： System GUID	
CFG_NETWORK_ACCESS_LIMITATION_TY PE	ネットワーク プロパティ： アクセス制限設定 制 限タイプ	0: 制限なし 1: 許可アドレス 2: 拒否アドレス

KeyName	意味	Value
CFG_NETWORK_ACCESS_ADDRESS	ネットワーク プロパティ： アクセス制限設定 IP アドレス	IP アドレス形式 コンマ(,)を使用し て、IP アドレスを区 切ってください IP アドレスは、ワイルドカード(*)での 指定が可能です
CFG_NETWORK_HTTP	ネットワーク サービス： Web サーバ設定 HTTP	0: 無効 1: 有効
CFG_NETWORK_HTTP_PORT	ネットワーク サービス： Web サーバ設定 HTTP ポート番号	1 - 65535
CFG_NETWORK_HTTPS	ネットワーク サービス： Web サーバ設定 HTTPS	0: 無効 1: 有効
CFG_NETWORK_HTTPS_PORT	ネットワーク サービス： Web サーバ設定 HTTPS ポート番号	1 - 65535
CFG_NETWORK_SSH	ネットワーク サービス： SSH 設定 SSH	0: 無効 1: 有効
CFG_NETWORK_SSH_PORT	ネットワーク サービス： SSH 設定 SSH ポート 番号	1 - 65535
CFG_MAIL_ALERT	通報 メール通報： 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_MAIL_ALERT_TIMEOUT	通報 メール通報： SMTPサーバ応答待ち 時間	30 - 600
CFG_MAIL_ALERT_SERVER	通報 メール通報： SMTP サーバ設定 サーバ	255 文字まで
CFG_MAIL_ALERT_PORT	通報 メール通報： SMTP サーバ設定 ポート番号	1 - 65535
CFG_MAIL_ALERT_CRAMMD5	通報 メール通報： SMTP サーバ設定 認 証 CRAM-MD5	0: 無効 1: 有効

KeyName	意味	Value
CFG_MAIL_ALERT_LOGIN	通報 メール通報： SMTP サーバ設定 認証 LOGIN	0: 無効 1: 有効
CFG_MAIL_ALERT_PLAIN	通報 メール通報： SMTP サーバ設定 認証 PLAIN	0: 無効 1: 有効
CFG_MAIL_ALERT_USER	通報 メール通報： SMTP サーバ設定 ユーザ名	64 文字まで
CFG_MAIL_ALERT_TO1	通報 メール通報： メール設定 宛先 1 メール設定 宛先 1 メールアドレス	255 文字まで 無効にする場合は 0 を指定してください
CFG_MAIL_ALERT_TO2	通報 メール通報： メール設定 宛先 2 メール設定 宛先 2 メールアドレス	255 文字まで 無効にする場合は 0 を指定してください
CFG_MAIL_ALERT_TO3	通報 メール通報： メール設定 宛先 3 メール設定 宛先 3 メールアドレス	255 文字まで 無効にする場合は 0 を指定してください
CFG_MAIL_ALERT_FROM	通報 メール通報： メール設定 差出人	255 文字まで
CFG_MAIL_ALERT_REPLY	通報 メール通報： メール設定 返信先	255 文字まで
CFG_MAIL_ALERT_SUBJECT	通報 メール通報： メール設定 件名	63 文字まで
CFG_MAIL_ALERT_LEVEL	通報 メール通報： 通報レベル設定 通報 レベル	0: 異常 1: 異常、警告 2: 異常、警告、情報 3: 個別設定
CFG_SNMP_ALERT	通報 SNMP 通報： 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_SNMP_COMPUTER_NAME	通報 SNMP 通報： コンピュータ名	16 文字まで
CFG_SNMP_COMMUNITY	通報 SNMP 通報： コミュニティ名	16 文字まで

KeyName	意味	Value
CFG_SNMP_ALERT_ACKNOWLEDGE	通報 SNMP 通報 : 通報応答確認	0: 無効 1: 有効
CFG_SNMP_ALERT_POLICY	通報 SNMP 通報 : 通報手順	1: 1 つの通報先のみ 2: すべての通報先
CFG_SNMP_ALERT_RETRY_COUNT	通報 SNMP 通報 : 通報リトライ回数	0 - 7
CFG_SNMP_ALERT_TIMEOUT	通報 SNMP 通報 : 通報タイムアウト	3 - 30
CFG_SNMP_MANAGE1_ALERT	通報 SNMP 通報 : 通報先 1 次通報先 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_SNMP_MANAGE1_IP	通報 SNMP 通報 : 通報先 1 次通報先 IP アドレス	IP アドレス形式
CFG_SNMP_MANAGE2_ALERT	通報 SNMP 通報 : 通報先 2 次通報先 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_SNMP_MANAGE2_IP	通報 SNMP 通報 : 通報先 2 次通報先 IP アドレス	IP アドレス形式
CFG_SNMP_MANAGE3_ALERT	通報 SNMP 通報 : 通報先 3 次通報先 通報	0: 無効 1: 有効
CFG_SNMP_MANAGE3_IP	通報 SNMP 通報 : 通報先 3 次通報先 IP アドレス	IP アドレス形式
CFG_SNMP_ALERT_LEVEL	通報 SNMP 通報 : 通報レベル設定 通報 レベル	0: 異常 1: 異常、警告 2: 異常、警告、情報 3: 個別設定
CFG_MISCELLANEOUS_SEL	その他 : SEL 設定 SEL 領域 Full 時の動作	0: SEL の記録停止 1: SEL の全クリア 2: 古い SEL を上書き
CFG_MISCELLANEOUS_PEF	その他 : PEF 設定 Platform Event Filter	0: 無効 1: 有効

2.2.24 getBmcInfo

Syntax:

```
dscli getBmcInfo Component [/x ModuleNo]
```

Description:

コンポーネントの BMC コンフィグレーション情報を取得します。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

/x ModuleNo

コンポーネントがフォールト・トレラント・サーバの場合に CPU/IO モジュールの番号 (0 または 1) を指定します。このパラメータはネットワーク設定項目についてのみ有効です。

ModuleNo を指定しない場合はネットワーク設定項目について CPU/IO モジュール 0 の設定を取得します。

その他の項目は、このパラメータにかかわらず現在プライマリとして動作している CPU/IO モジュールの設定を取得します。

コンポーネントが EXPRESSSCOPE エンジン SP3 搭載サーバ (2BMC モデル) の場合に Master (0) または StandBy (1) を指定します。このパラメータはネットワークパラメータ設定項目についてのみ有効です。

ModuleNo を指定しない場合はネットワークパラメータ設定項目について Master (0) の設定を取得します。

Output:

BMC コンフィグレーション情報を表示します。詳細は、2.2.23 setBmcInfo を参照してください。表示例を示します。

```
CFG_COMPUTER_NAME=Component1
CFG_COMMUNITY=public
CFG_ALERT_ALL=1
CFG_POLICY=1
CFG_ALERT_ACKNOWLEDGE=1
CFG_ALERT_LEVEL=4
CFG_LAN_REDIRECTION=1
CFG_LAN_CONTROL_LAN1=1
CFG_SERIAL_REDIRECTION=1
CFG_SERIAL_CONTROL=1
CFG_LAN_IP_LAN1=192.168.14.14
CFG_LAN_SUBNET_LAN1=255.255.255.0
CFG_LAN_GATEWAY_LAN1=192.168.14.1
CFG_LAN_MANAGE1_ALERT_LAN1=0
CFG_LAN_MANAGE1_IP_LAN1=0.0.0.0
CFG_LAN_MANAGE2_ALERT_LAN1=0
CFG_LAN_MANAGE2_IP_LAN1=0.0.0.0
CFG_LAN_MANAGE3_ALERT_LAN1=0
CFG_LAN_MANAGE3_IP_LAN1=0.0.0.0
CFG_LAN_ALERT_RETRY_COUNT_LAN1=3
CFG_LAN_ALERT_RETRY_TIMEOUT_LAN1=6
:
```

2.2.25 setAuthKey

Syntax:

```
dscli setAuthKey Component OldPassword NewPassword SelectAuthKey
```

Description:

コンポーネントの BMC コンフィグレーション情報に設定されている認証キーまたはモデム経由通報先である PPP サーバ、メール通報先である SMTP サーバのパスワードを変更します。BMC の種類によってサポートしているパラメータが異なります。

ヒント:

- 認証キーを変更した場合は、このコマンドが正常終了した後、2.2.9 setServerProperty でESMPRO/ServerManager上に登録している認証キーを変更してください。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

OldPassword

現在の認証キーまたはパスワードを入力します。

NewPassword

新しい認証キーまたはパスワードを入力します。

16 文字までの認証キーまたは PPP サーバパスワードを指定してください。

SMTP サーバのパスワードは 20 文字までのパスワードを指定してください。

SelectAuthKey

変更する認証キーまたはパスワードの種類を指定します。

- | | |
|---|------------------|
| 0 | 認証キー |
| 1 | PPP サーバ 1 パスワード |
| 2 | PPP サーバ 2 パスワード |
| 3 | メール通報 SMTP パスワード |

2.2.26 setSensorLevel

Syntax:

```
dscli setSensorLevel Component Type SensorName Level1 Level2 Level3
```

Description:

コンポーネントの BMC コンフィグレーション情報に設定されている通報個別センサレベルを変更します。このコマンドは通報レベルが個別設定の場合に実行できます。

ヒント:

- 通報レベルを個別設定に変更する場合は setBmcInfo を使用します。2.2.23 setBmcInfo を参照してください。

Options:**Component**

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Type

通報タイプを指定します。

SNMP SNMP 通報
MAIL メール通報

SensorName

通報レベルを変更するセンサ名を指定します。一覧を参照してください。

Level1

通報レベル(異常)を指定します。以下の数値によって通報レベルの指定を行います。

Level2

通報レベル(警告)を指定します。以下の数値によって通報レベルの指定を行います。

Level3

通報レベル(情報)を指定します。以下の数値によって通報レベルの指定を行います。

0 SNMP 通報またはメール通報の通報レベルを無効
1 SNMP 通報またはメール通報宛先 1 の通報レベルを有効
2 メール通報宛先 2 の通報レベルを有効
3 メール通報宛先 3 の通報レベルを有効
4 メール通報宛先 1、宛先 2 の通報レベルを有効
5 メール通報宛先 1、宛先 3 の通報レベルを有効
6 メール通報宛先 2、宛先 3 の通報レベルを有効
7 メール通報宛先 1、宛先 2、宛先 3 の通報レベルを有効
8 SNMP 通報またはメール通報の全宛先の通報レベルが未対応

ヒント:

- 指定したセンサで変更不可の通報レベルがある場合、0 を指定してください。
- 通報レベルに 8 を設定することはできません。

センサ名と指定可能レベルの一覧を参照してください。

○ : 変更可能、 × : 変更不可能

SensorName	意味	Level1	Level2	Level3
TEMP_THRESHOLD	温度(閾値監視)	○	○	○
VOLT_THRESHOLD	電圧(閾値監視)	○	○	○
FAN_SENSOR	ファン(回転数)	○	○	○
COOL_DEV_THRESHOLD	冷却装置(閾値監視)	○	○	○
TEMP_ABNORMAL	温度(異常監視)	○	×	○
POST_MEM_RESIZE	メモリ縮退	×	○	○
MODULE_BOARD	モジュール/ボード(未実装)	○	×	○
SMI_TIMEOUT	SMI Timeout	○	×	○
VOL_ABNORMAL	電圧(異常監視)	○	×	○
COOL_DEV_ABNORMAL	冷却装置(異常監視)	○	○	○
TRANSITION_PW_SAVE	低消費電力モード遷移	×	×	○

SensorName	意味	Level1	Level2	Level3
MICROCONTROLL_STS	マイクロコントローラ状態	×	○	○
PW_UNIT_REDUN	電源ユニット(冗長構成監視)	○	○	○
PHY_SEC	筐体イントリュージョン	×	×	○
PLATFORM_SEC	セキュリティ違反	×	×	○
PROCESSOR	プロセッサ	○	×	○
PW_SUPPLY	電源モジュール	×	○	○
PW_UNIT_STS	電源ユニット(状態監視)	○	○	○
MEM	メモリ	○	×	○
DRIVE_SLOT	デバイスベイ	○	○	○
POST_ERR	POST	○	×	○
EVT_LOG_DISABLED	ログ	×	○	○
SYS_EVT	システムイベント	×	×	○
CRITICAL_INT	異常系割り込み	○	×	○
BUTTON_SWITCH	ボタン/スイッチ	×	×	○
CHIP_SET	チップセット	○	×	○
CABLE_INTERRUPT	ケーブル/機器相互接続	×	×	○
SYS_BOOT_RESTART_INIT	システムブート/リスタート	×	×	○
BOOT_ERR	ブートエラー	×	×	○
OS_BOOT	OS ブート	×	×	○
OS_STOP_SHUTDOWN	OS 停止/シャットダウン	○	×	○
SLOT_CONNECTOR	スロット/コネクタ	○	○	○
ACPI	ACPI(省電力管理)	×	×	○
WATCHDOG_TIMER	ウォッチドッグタイマ	○	×	○
ENTITY_PRESENCE_INFO	装置構成単位の実装情報	×	×	○
VERSION_CHANGE	バージョン変更	×	×	○
FRU_HOT_SWAP	FRU Hot Swap	×	×	○
SYS_SPEC_PW_STATE	システム固定電源状態	×	×	○
PW_CAPPING	Power Capping	○	○	×
SENSOR_FAILURE	センサ故障	○	×	○
MANAGEMENT_ENGINE	マネージメントエンジン	○	×	○

フォールト・トレラント・サーバの場合は、指定可能なセンサ名と指定可能レベルが異なります。以下の一覧を参照してください。

SensorName	意味	Level1	Level2	Level3
TEMP_THRESHOLD	温度(閾値監視)	×	○	○
VOLT_THRESHOLD	電圧(閾値監視)	×	○	○
FAN_SENSOR	ファン(回転数)	×	○	○
PROCESSOR	プロセッサ	×	○	○
PW_SUPPLY	電源モジュール	×	○	○
PW_UNIT_STS	電源ユニット(状態監視)	×	×	○
MEM	メモリ	×	○	○

SensorName	意味	Level1	Level2	Level3
POST_ERR	POST	×	○	○
EVT_LOG_DISABLED	ログ	×	×	○
SYS_EVT	システムイベント	×	×	○
CRITICAL_INT	異常系割り込み	○	×	○
BUTTON_SWITCH	ボタン/スイッチ	×	×	○
SYS_BOOT_RESTART_INIT	システムブート/リスタート	×	×	○
BOOT_ERR	ブートエラー	×	×	○
SLOT_CONNECTOR	スロット/コネクタ	×	×	○
ACPI	ACPI(省電力管理)	×	×	○
WATCHDOG_TIMER	ウォッチドッグタイマ	×	○	○
SENSOR_FAILURE	センサ故障	×	○	○
HA_EVENT	HA イベント	○	○	○

EXPRESSSCOPE エンジン SP3 搭載サーバ (2BMC モデル) の場合は、指定可能なセンサ名と指定可能レベルが異なります。

以下の一覧を参照してください。

SensorName	意味	Level1	Level2	Level3
TEMP_THRESHOLD	温度(閾値監視)	○	○	○
VOLT_THRESHOLD	電圧(閾値監視)	○	○	○
FAN_SENSOR	ファン(回転数)	○	○	○
POST_MEM_RESIZE	メモリ縮退	×	○	○
SMI_TIMEOUT	SMI Timeout	○	○	○
VOL_ABNORMAL	電圧(異常監視)	○	○	○
PROCESSOR_ABNORMAL	プロセッサ(異常監視)	○	○	○
MODULE_BOARD_ABNORMAL	モジュール/ボード(異常状態監視)	○	×	○
MODULE_BOARD_DISABLED	モジュール/ボード(無効状態監視)	×	×	○
SLOT_CONNECTOR_DISABLED	スロット/コネクタ(無効状態監視)	○	○	○
PROCESSOR_DEGRADED	プロセッサ(縮退状態監視)	×	×	○
MODULE_BOARD_DEGRADED	モジュール/ボード(縮退状態監視)	×	×	○
MICROCONTROLL_STS	マイクロコントローラ状態	○	○	○
SLOT_CONNECTOR_DEGRADED	スロット/コネクタ(縮退状態監視)	○	○	○
FAN_REDUN	FAN ユニット(冗長構成監視)	○	×	○
MEM_REDUN	メモリ(冗長構成監視)	○	○	○
PW_UNIT_REDUN	電源ユニット(冗長構成監視)	○	○	○
PLATFORM_SEC	セキュリティ違反	×	×	○
PROCESSOR	プロセッサ	○	○	○
PW_SUPPLY	電源モジュール	○	○	○
PW_UNIT_STS	電源ユニット(状態監視)	○	○	○
MEM	メモリ	○	○	○
DRIVE_SLOT	デバイスベイ	○	×	○
POST_ERR	POST	×	×	○

SensorName	意味	Level1	Level2	Level3
EVT_LOG_DISABLED	ログ	×	×	○
SYS_EVT	システムイベント	○	×	○
CRITICAL_INT	異常系割り込み	○	○	○
BUTTON_SWITCH	ボタン/スイッチ	×	×	○
CHIP_SET	チップセット	○	○	○
SYS_BOOT_RESTART_INIT	システムブート/リスタート	×	×	○
BOOT_ERR	ブートエラー	×	×	○
OS_BOOT	OS ブート	×	○	○
OS_STOP_SHUTDOWN	OS 停止/シャットダウン	×	×	○
SLOT_CONNECTOR	スロット/コネクタ	○	○	○
ACPI	ACPI(省電力管理)	×	×	○
WATCHDOG_TIMER	ウォッチドックタイマ	×	○	×
ENTITY_PRESENCE_INFO	装置構成単位の実装情報	○	○	○
BATTERY	電池/バッテリー	○	○	○
SYS_SPEC_PW_STATE	システム固有電源状態	○	○	○
PW_CAPPING	Power Capping	×	○	×
SENSOR_FAILURE	センサ故障	○	○	○
MANAGEMENT_ENGINE	マネジメントエンジン	○	○	○

2.2.27 getSensorLevel

Syntax:

dscli getSensorLevel *Component Type*

Description:

コンポーネントの BMC コンフィグレーション情報の通報レベル設定の通報レベルの個別センサレベルを表示します。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Type

通報タイプを指定します。

SNMP SNMP 通報
MAIL メール通報

Output:

センサ個別レベル情報を表示します。詳細は、2.2.26 setSensorLevel を参照してください。
表示例を示します。

```
TEMP_THRESHOLD=111
VOLT_THRESHOLD=000
FAN_SENSOR=000
PLATFORM_SEC=800
PROCESSOR=000
PW_SUPPLY=000
PW_UNIT_STS=000
MEM=000
DRIVE_SLOT=000
EVT_LOG_DISABLED=800
SYS_EVT=080
CRITICAL_INT=000
BUTTON_SWITCH=880
MODULE_BOARD=800
SYS_BOOT_RESTART_INIT=880
BOOT_ERR=880
ACPI=880
SMI_TIMEOUT=800
POST_MEM_RESIZE=800
POST_ERR=800
SLOT_CONNECTOR=080
WATCHDOG_TIMER=080
SENSOR_FAILURE=800
:
```

2.2.28 getAgentExtensionLog**Syntax:**

```
dscli getAgentExtensionLog Component
```

Description:

ESMPRO/ServerAgent Extension のアプリケーションログを取得して表示します。このコマンドはコンポーネント上で ESMPRO/ServerAgent Extension のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

ESMPRO/ServerAgent Extension のアプリケーションログを表示します。

2.2.29 testAlert

Syntax:

```
dscli testAlert Component Target
```

Description:

コンポーネントに通報テストを実行させます。BMC の種類によってサポートしているパラメータが異なります。

通報テストの結果は 2.2.30 getTestAlertStatusで確認してください。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Target

通報先を指定します。以下の数値によって通報先の指定を行います。

- LAN1_1 (または 0): LAN1 1 次通報先
- LAN1_2 (または 1): LAN1 2 次通報先
- LAN1_3 (または 2): LAN1 3 次通報先
- LAN2_1 (または 3): LAN2 1 次通報先
- LAN2_2 (または 4): LAN2 2 次通報先
- LAN2_3 (または 5): LAN2 3 次通報先
- PPP1_1 (または 6): PPP1 1 次通報先
- PPP1_2 (または 7): PPP1 2 次通報先
- PPP1_3 (または 8): PPP1 3 次通報先
- PPP2_1 (または 9): PPP2 1 次通報先
- PPP2_2 (または 10): PPP2 2 次通報先
- PPP2_3 (または 11): PPP2 3 次通報先
- Pager1 (または 12): Pager 1 次通報先
- Pager2 (または 13): Pager 2 次通報先
- SNMP1 (または 14): SNMP 1 次通報先
- SNMP2 (または 15): SNMP 2 次通報先
- SNMP3 (または 16): SNMP 3 次通報先
- MAIL1 (または 17): メール 宛先 1
- MAIL2 (または 18): メール 宛先 2
- MAIL3 (または 19): メール 宛先 3

2.2.30 getTestAlertStatus

Syntax:

```
dscli getTestAlertStatus Component Target
```

Description:

通報テストの実行状態を取得して表示します。BMC の種類によってサポートしているパラメータが異なります。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Target

状態を取得する通報先を指定します。通報先の指定については 2.2.29 testAlertを参照してください。

Output:

通報テストの実行状態を表示します。実行状態には以下の種類があります。

TEST_UNKNOWN	:不明
TEST_TESTING	:通報中
TEST_SUCCESS	:通報終了(正常終了)
TEST_ABORT	:通報失敗(異常終了)
TEST_CALL_FAILED	:通報失敗(ダイヤルアップ失敗)
TEST_TIMEOUT	:通報失敗(タイムアウト)
TEST_ERROR	:通報失敗(その他エラー)

通報中の場合の表示例を示します。

TEST_TESTING

2.2.31 getServerStatus**Syntax:**

dscli getServerStatus *Component*

Description:

指定されたコンポーネントの状態を表示します。
コンポーネント監視機能で、コンポーネントの状態を確認します。

Options:**Component**

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

コンポーネントの状態には以下の種類があります。

ERROR	異常
WARNING	警告
UNKNOWN	不明、通信エラー
DC-OFF	DC-OFF
NORMAL	正常
NO_MONITORING	監視対象外

2.2.32 getPowerStatus

Syntax:

```
dscli getPowerStatus Component
```

Description:

コンポーネントの電源状態を取得して表示します。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

電源状態を表示します。電源状態は以下の 2 種類です。

DC_ON	パワーオン
DC_OFF	パワーオフ

2.2.33 getStatusLamp

Syntax:

```
dscli getStatusLamp Component
```

Description:

指定されたコンポーネントの STATUS ランプの状態を取得して表示します。

フォールト・トレラント・サーバの場合、システム FAULT ランプの状態を表示します。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

コンポーネントの STATUS ランプの状態を表示します。STATUS ランプの状態は以下の 7 種類です。

OFF	消灯
GREEN_ON	緑点灯
GREEN_BLINK	緑点滅
AMBER_ON	アンバー点灯
AMBER_BLINK	アンバー点滅
RED_ON	赤点灯
RED_BLINK	赤点滅

2.2.34 getPanelInfo

Syntax:

```
dscli getPanelInfo Component [/x ModuleNo]
```

Description:

コンポーネントのフロントパネル情報として、電源状態、STATUS ランプ、LCD、ウォッチドッグタイマのシステム監視状態、システム通電累積時間を取得して表示します。

Options:**Component**

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

/x ModuleNo

コンポーネントがフォールト・トレラント・サーバの場合に CPU/IO モジュールの番号 (0 または 1) を指定します。ModuleNo を指定しない場合は CPU/IO モジュール 0 の状態を取得します。

Output:

フロントパネル情報を表示します。表示例を示します。

```
Power Status      : SO_GO
STATUS Lamp       : GREEN_ON
LCD0               : Prepare To Boot
LCD1               :
Watchdog Status    : STARTED
Watchdog Use       : SMS_OS
Watchdog Interval  : 10 sec
POH                : 262920 min
:
```

2.2.35 powerOn**Syntax:**

```
dscli powerOn Component [ /p]
```

Description:

コンポーネントの電源を ON にします。

また、コンポーネントが POWER スイッチによって回復するスリープ状態にある場合は、このコマンドによりスリープ状態から回復できます。

重要:

- コンポーネントが強制ネットワークブート機能(ブート順位に関わらずネットワークからブートする機能)をサポートしていない場合はネットワークブートを実行できません。「ESMPRO/ServerManager コンポーネント一覧」でご確認ください。
- 電源ベイの場合、電源制御操作は電源ベイ自体に対しては行われません。電源ベイに搭載されているメンテナンスカードの電源制御が行われます。

Options:**Component**

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

/p

“/p”を指定すると、電源 ON 後、ネットワークブートを行います。

2.2.36 powerOff

Syntax:

```
dscli powerOff Component
```

Description:

コンポーネントの電源を強制的に OFF にします。

重要：

- コンポーネント上の OS 状態に関わらずハードウェアで制御を行うため、システム破壊の可能性があります。コンポーネントの状態を確認の上、実行してください。
- 電源ベイの場合、電源制御操作は電源ベイ自体に対しては行われません。電源ベイに搭載されているメンテナンスカードの電源制御が行われます。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

2.2.37 reset

Syntax:

```
dscli reset Component [/p]
```

Description:

コンポーネントを強制的にリセットします。

重要：

- コンポーネント上の OS 状態に関わらずハードウェアで制御を行うため、システム破壊の可能性があります。コンポーネントの状態を確認の上、実行してください。
- コンポーネントが強制ネットワークブート機能(ブート順位に関わらずネットワークからブートする機能)をサポートしていない場合はネットワークブートを実行できません。「ESMPRO/ServerManager コンポーネント一覧」でご確認ください。
- 電源ベイの場合、電源制御操作は電源ベイ自体に対しては行われません。電源ベイに搭載されているメンテナンスカードの電源制御が行われます。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

/p

“/p”を指定すると、リセット後、ネットワークブートを行います。

2.2.38 powerCycle

Syntax:

`dscli powerCycle Component [/p]`

Description:

コンポーネントの電源を強制的に OFF にした後、ON にします。

重要：

- コンポーネント上の OS 状態に関わらずハードウェアで制御を行うため、システム破壊の可能性があります。コンポーネントの状態を確認の上、実行してください。
- コンポーネントが強制ネットワークブート機能(ブート順位に関わらずネットワークからブートする機能)をサポートしていない場合はネットワークブートを実行できません。「ESMPRO/ServerManager コンポーネント一覧」でご確認ください。
- 電源ベイの場合、電源制御操作は電源ベイ自体に対しては行われません。電源ベイに搭載されているメンテナンスカードの電源制御が行われます。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

/p

“/p”を指定すると、リセット後、ネットワークブートを行います。

2.2.39 shutdownOs

Syntax:

```
dscli shutdownOs Component [/force]
```

Description:

コンポーネント上の OS をシャットダウンします。

LAN 経由で実行する場合は、コンポーネント上で ESMPRO/ServerAgent Extension のサービスが動作しているときに実行できます。ダイレクト接続またはモデム経由接続で実行する場合は、ESMPRO/ServerAgent に OS シャットダウンを指示します。

“/force”オプションを指定した場合は、接続形態に関わらず、強制シャットダウンを行います。このとき ESMPRO/ServerAgent Extension または ESMPRO/ServerAgent とは通信を行いません。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

/force

“/force”を指定すると、強制シャットダウンを実行します。

OS の種類や設定によっては正しくシャットダウンされない可能性があります。

2.2.40 dumpSwitch

Syntax:

```
dscli dumpSwitch Component
```

Description:

コンポーネントの DUMP スイッチを入れます。

重要：

- コンポーネント上の OS 状態に関わらずハードウェアで制御を行うため、システム破壊の可能性があります。コンポーネントの状態を確認の上、実行してください。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

2.2.41 clearSel

Syntax:

`dscli clearSel Component [/force]`

Description:

コンポーネントのシステムイベントログ(SEL)領域をクリアします。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

/force

“force”を指定すると、コンポーネント上で ESMPRO/ServerAgent の自動バックアップサービスが動作している場合も、SEL 領域をクリアします。

2.2.42 identifyChassis

F

Syntax:

`dscli identifyChassis Component Period`

Description:

コンポーネントの筐体識別ランプを点灯させます。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Period

点灯時間を秒単位で指定します。0-255 の範囲で指定してください。

2.2.43 getIpmiInfo

Syntax:

```
dscli getIpmiInfo Component FileName [/x ModuleNo]
```

Description:

IPMI 情報を取得し、指定されたファイル名で保存します。

今回読み込まない種類の情報について、ESMPRO/ServerManager が以前に読み込んだ情報を保持している場合は、合わせてファイルに保存します。

ヒント:

- 取得した IPMI 情報保存ファイルは、ESMPRO/ServerManager に Web ブラウザ上でログインし、ヘッダメニューの「ツール」より、アップロードして参照できます。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

FileName

取得した情報を保存するファイル名(パス名)を指定します。

/x ModuleNo

コンポーネントがフォールト・トレラント・サーバの場合に CPU/IO モジュールの番号 (0 または 1) を指定します。ModuleNo を指定しない場合は CPU/IO モジュール 0 の情報を取得します。

2.2.44 getSensorList

Syntax:

```
dscli getSensorList Component [/x ModuleNo]
```

Description:

あらかじめ 2.2.43 getIpmiInfo を実行してください。getIpmiInfo コマンドで取得したセンサ情報(SDR)から、現在の状態を取得可能なセンサの一覧を作成して表示します。一覧の先頭に、各センサの SDR レコードIDが表示されます。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

/x ModuleNo

コンポーネントがフォールト・トレラント・サーバの場合に CPU/IO モジュールの番号 (0 または 1) を指定します。ModuleNo を指定しない場合は CPU/IO モジュール 0 の情報を取得します。

Output:

センサの一覧を表示します。表示例を示します。

```
0001h: Sensor Type=Temperature(Front Panel Temp), Owner=Basbrd Mgmt Ctlr
0002h: Sensor Type=Temperature(Baseboard Temp), Owner=Basbrd Mgmt Ctlr
0003h: Sensor Type=Temperature(Processor 1 Temp), Owner=Basbrd Mgmt Ctlr
0004h: Sensor Type=Temperature(Processor 2 Temp), Owner=Basbrd Mgmt Ctlr
0005h: Sensor Type=Temperature(PwrDstBd Temp), Owner=Basbrd Mgmt Ctlr
:
```

2.2.45 getSensorStatus**Syntax:**

```
dscli getSensorStatus Component RecordId [/x ModuleNo]
```

Description:

コンポーネント上の指定されたセンサの状態を取得して表示します。

Options:***Component***

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

RecordId

2.2.44 getSensorListにより表示されたセンサー一覧から、SDRレコードIDを指定します。

/x ModuleNo

コンポーネントがフォールト・トレラント・サーバの場合に CPU/IO モジュールの番号 (0 または 1) を指定します。ModuleNo を指定しない場合は CPU/IO モジュール 0 の状態を取得します。

Output:

センサの状態を表示します。表示例を示します。

```
Current Value:
  30.00 degrees C
Current Status:
  Normal
Upper non-recoverable Threshold:
  ---
Upper critical Threshold:
  46.00 degrees C (Hysteresis:44.00 degrees C)
Upper non-critical Threshold:
  43.00 degrees C (Hysteresis:41.00 degrees C)
Lower non-critical Threshold:
  3.00 degrees C (Hysteresis:5.00 degrees C)
Lower critical Threshold:
  0.00 degrees C (Hysteresis:2.00 degrees C)
Lower non-recoverable Threshold:
  ---
```

2.2.46 getConsoleLog

Syntax:

dscli getConsoleLog *Component*

Description:

コンポーネントのコンソールログを表示します。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

コンソールログを表示します。

2.2.47 setBmcIpSync

Syntax:

dscli setBmcIpSync *Component Value*

Description:

コンポーネント上の ESMPRO/ServerAgent Extension の BMC IP アドレス同期設定(BMC が標準 LAN ポートを使用するコンポーネントの場合、OS 上に設定されている IP アドレスと BMC コンフィグレーションの IP アドレスを定期的に比較し、異なるときは BMC の IP アドレスを変更する機能)の有効 / 無効を変更します。このコマンドはコンポーネント上で ESMPRO/ServerAgent Extension のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Value

同期設定の有効 / 無効を指定します。

0	無効
1	有効

ヒント:

- BMC が専用 LAN ポート (管理 LAN 用ポート) を使用するコンポーネント上の ESMPRO/ServerAgent Extension に対してこのコマンドを発行した場合、コマンドは正常終了しますが、何も設定されません。
-

2.2.48 getBmcIpSync

Syntax:

```
dscli getBmcIpSync Component
```

Description:

コンポーネント上の ESMPRO/ServerAgent Extension の BMC IP アドレス同期設定(BMC が標準 LAN ポートを使用するコンポーネントの場合、OS 上に設定されている IP アドレスと BMC コンフィグレーションの IP アドレスを定期的に IP アドレスを比較し、異なるときは BMC の IP アドレスを変更する機能)の有効 / 無効を取得して表示します。このコマンドはコンポーネント上で ESMPRO/ServerAgent Extension のサービスが動作しているときに LAN 経由で実行できます。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

同期設定の有効 / 無効を表示します。

Enable	有効
Disable	無効

表示例を示します。

```
Agent Config (BMC IP Sync) : Enable
```

2.2.49 getBladeSlotId

Syntax:

```
dscli getBladeSlotId Component
```

Description:

あらかじめ 2.2.43 getIpmiInfo を実行してください。コンポーネントがブレードサーバの場合、ブレードが格納されている筐体 (ブレード収納ユニット) を識別するための筐体 ID、および筐体内の実装位置を示すスロット ID を取得して表示します。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

筐体 ID およびスロット ID を表示します。表示例を示します。

```
Enclosure ID: 0040000000
Slot ID:      2
```

2.2.50 deleteBmcUser

Syntax:

`dscli deleteBmcUser Component UserId`

Description:

コンポーネントの BMC コンフィグレーションに設定されているユーザアカウント情報を削除します。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

UserId

BMC を利用するユーザに割り付けられている番号(1～12)を指定します。

2.2.51 getBmcUserList

Syntax:

```
dscli getBmcUserList Component
```

Description:

コンポーネントの BMC コンフィグレーションに設定されているユーザアカウント情報の一覧を表示します。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

表示例を示します。

No.1	
User	: true
User Name	: USERNAME1
Privilege	: Administrator
No.2	
User	: true
User Name	: USERNAME2
Privilege	: Operator
No.3	
User	: false
User Name	: USERNAME3
Privilege	: User

2.2.52 setBmcUserInfo

Syntax:

`dscli setBmcUserInfo Component UserId KeyName Value`

Description:

BMC コンフィグレーションのユーザアカウント情報を変更します。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

UserId

BMC を利用するユーザに割り付けられている番号(1 ~ 12)を指定します。

KeyName

変更するユーザアカウント情報項目を示すキー名を指定します。一覧を参照してください。

Value

新たに設定する値を指定します。一覧を参照してください。

KeyName	意味	Value
USER	ユーザ	0: 無効 1: 有効
USER_NAME	ユーザアカウント名	15 文字まで(*1)
USER_PASSWORD	パスワード	19 文字まで(*2)
USER_PRIVILEGE	権限	0: ユーザ 1: オペレータ 2: アドミニストレータ

(*1) 半角英数字と「-」,「_」のみ使用可能。但し「-」はユーザアカウント名の先頭には使用できません。

(*2) 「(空白)」,「"」,「&」,「?」,「=」を除く ASCII 文字列のみ使用可能。

2.2.53 getBmcUserInfo

Syntax:

`dscli getBmcUserInfo Component UserId`

Description:

BMC コンフィグレーションのユーザアカウント情報を取得して表示します。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

UserId

BMC を利用するユーザに割り付けられている番号(1 ~ 12)を指定します。1 ~ 12 のうち、未登録ユーザ ID が指定された場合、全て空白で表示します。

Output:

表示例を示します。

USER	: true
USER NAME	: USERNAME2
USER_PRIVILEGE	: Operator

2.2.54 setPowerRestorePolicy

Syntax:

```
dsccli setPowerRestorePolicy Component Policy
```

Description:

コンポーネントが AC ON されたときの動作を指定する AC-LINK 設定を変更します。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Policy

AC-LINK を設定します。Policy に設定可能な値は 3 種類です。

STAY_OFF AC ON 時、DC OFF 状態になります。

LAST_STATE DC OFF 中に AC OFF された場合は、AC ON 時、DC OFF 状態になります。

DC ON 中に AC OFF された場合は、AC ON 時、DelayTime で指定された時間後に DC ON 状態になります。

POWER_ON AC ON 時、DelayTime で指定された時間後に DC ON 状態になります。

2.2.55 getPowerRestorePolicy

Syntax:

```
dsccli getPowerRestorePolicy Component
```

Description:

コンポーネントが AC ON されたときの動作を指定する AC-LINK 設定の内容を取得して表示します。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

表示例を示します。

Policy	: STAY_OFF
--------	------------

2.2.56 getSystemFtLamp

Syntax:

`dscli getSystemFtLamp Component`

Description:

コンポーネントがフォールト・トレラント・サーバの場合、システム FT ランプの状態を表示します。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

Output:

システム FT ランプの状態を表示します。システム FT ランプの状態には以下の種類があります。

GREEN_ON	緑点灯(Duplex)
GREEN_BLINK	緑点滅(スプリットモード)
GREEN_OFF	消灯(電源 OFF または片系動作)

2.3 EMカード管理系コマンド

以下のコンポーネント管理系コマンドはEMカードに対しても実行できます。但し、オプション名 Component に MAC アドレスを指定することはできません。

[getServerNameByGuid](#)
[findNewServer](#)
[findNewServerNetAddr](#)
[createServer](#)
[deleteServer](#)
[checkConnection](#)
[setServerProperty](#)
[getServerProperty](#)
[getServerInfo](#)
[getDeviceId](#)
[getGuid](#)
[getServerStatus](#)

2.3.1 getEmCardList

Syntax:
dscli getEmCardList [/d]

Description:
ESMPRO/ServerManager 上に登録された EM カードの一覧を表示します。

Options:
/d
“/d”を指定すると、EM カード一覧に、EM カード名の他 GUID を表示します。

Output:
ESMPRO/ServerManager 上に登録された EM カードの一覧を表示します。

(“/d”オプションを指定しない場合)

```
EM0001
EM0002
```

(“/d”オプションを指定した場合)

```
EM0001
GUID 01b21dd2:1dd2:11b2:2fa4:003013630cc5

EM0002
GUID 01b21dd2:1dd2:11b2:49bd:003013630cc0
```

2.3.2 getEmActiveState

Syntax:

```
dscli getEmActiveState EmCard
```

Description:

指定された EM カードの、アクティブ/スタンバイの状態を表示します。

Options:

EmCard

EM カードの名前を指定します。

Output:

Active	アクティブ
Standby	スタンバイ

2.3.3 identifyEm

Syntax:

```
dscli identifyEm EmCard [/x SwmSlotNumber]
```

Description:

指定された EM カード、または EM カードが管理するスイッチモジュールの筐体識別ランプを 15 秒間点灯させます。EM カードがアクティブな場合のみ実行できます。

Options:

EmCard

EM カードの名前を指定します。

/x SwmSlotNumber

EM カードが管理するスイッチモジュールの筐体識別ランプを点灯させたい場合に、スロット番号を指定してください。

2.3.4 getEmStatusLamp

Syntax:

```
dscli getEmStatusLamp EmCard [/x SwmSlotNumber]
```

Description:

指定された EM カード、または EM カードが管理するスイッチモジュールの STATUS ランプの状態を取得して表示します。

Options:

EmCard

EM カードの名前を指定します。

/x *SwmSlotNumber*

EM カードが管理するスイッチモジュールの STATUS ランプを取得したい場合に、スイッチモジュールのスロット番号を指定します。スイッチモジュールの STATUS ランプ状態取得は、EM カードがアクティブな場合のみ実行できます。

Output:

STATUS ランプの状態を表示します。STATUS ランプの状態は以下の通りです。

GREEN_ON	緑点灯
GREEN_BLINK	緑点滅
AMBER_BLINK	アンバー点滅
RED_BLINK	赤点滅

2.4 筐体管理系コマンド

2.4.1 getBladeEnclosureList

Syntax:
dscli getBladeEnclosureList

Description:
ESMPRO/ServerManager 上に登録されているコンポーネントまたは EM カードが搭載されているブレード収納ユニットの一覧を表示します。

Output:
コンポーネントまたは EM カードが搭載されているブレード収納ユニットの一覧を表示します。

2.4.2 getChassisSlotState

Syntax:
dscli getChassisSlotState *ChassisName*

Description:
指定された筐体がブレード収納ユニットの場合、各ブレードスロットの実装状態を表示します。EMカード、およびスイッチモジュールが搭載されている筐体の場合は、EMカードおよびスイッチモジュールの一覧も表示します。

Options:
ChassisName
筐体名を指定します。

Output:

表示内容	説明	
スロット番号	スロット番号を示します。 搭載されているブレードが 2 枚幅か高さの場合は、複数のスロット番号を表示します。	
実装状態	コンポーネント名	スロットに実装されている、かつ ESMPRO/ServerManager 上にコンポーネント登録されている場合に表示します。 ブレードの幅 2 の場合は、コンポーネント名に続けて (Double-wide) と表示します。 ブレードの高さ 2 の場合は、コンポーネント名に続けて (Full-height) と表示します。
	Installed	スイッチモジュールがスロットに実装されている場合に表示します。
	Not registered	スロットに実装されている、かつ ESMPRO/ServerManager 上にコンポーネント登録されていない場合に表示します。
	Not installed	スロットに実装されていない場合に表示します。
	(空白)	「未登録」と「未実装」を判別できない場合、何も表示しません。

表示例を示します。

```
CPU Blade:
1: SERVER_0001
2: SERVER_0002
3,4: SERVER_0003 (Double-wide)
5: Not installed
6: Not registered
7: Not installed
8: Not registered

EM Card:
1.EM0001
2.EM0002

Switch Module:
1: Installed
2: Installed
3: Not installed
4: Not installed
5: Not installed
6: Not installed
```

2.4.3 getChassisInfo

Syntax:
dscli getChassisInfo ChassisName

Description:
指定された筐体の情報を表示します。

Options:
ChassisName
 筐体の名前を指定します。

Output:
指定された筐体の情報を表示します。

項目名	意味
Chassis Name	筐体の名前です。
Comments	筐体についての説明です。
Rack Name	ラックの名前です。EM カードを搭載している筐体の場合に表示されます。
Rack ID	ラック ID です。EM カードを搭載している筐体の場合に表示されます。
Unit Name	ブレード収納ユニット名です。EM カードを搭載している筐体の場合に表示されます。
Serial Number	筐体識別用のシリアル番号です。

2.4.4 setChassisProperty

Syntax:

```
dscli setChassisProperty ChassisName PropertyName Value
```

Description:

指定された筐体の筐体プロパティを設定します。

Options:

ChassisName

筐体の名前を指定します。

PropertyName

設定するプロパティの名前を指定します。一覧を参照してください。

Value

新たに設定する値を指定します。一覧を参照してください。

PropertyName	意味	Value
CHASSIS_NAME	筐体の名前です。	32 文字まで
CHASSIS_COMMENT	筐体についての説明です	100 文字まで

ヒント:

- CHASSIS_NAME に既に登録されている筐体の名前は指定できません。

2.4.5 getChassisProperty

Syntax:

```
dscli getChassisProperty ChassisName PropertyName
```

Description:

指定された筐体の筐体プロパティを表示します。

Options:

ChassisName

筐体の名前を指定します。

PropertyName

取得するプロパティの名前を指定します。筐体プロパティの一覧は 2.4.4 setChassisProperty を参照してください。

Output:

指定された筐体プロパティを表示します。

2.4.6 setBladeAutoSetting

Syntax:

```
dscli setBladeAutoSetting ChassisName SlotNumber PropertyName Value
```

Description:

このコマンドは EM カードを搭載可能な筐体に対してのみ有効です。

筐体に新しく CPU ブレードが実装されたことを検出したときに、CPU ブレード上の BMC のコンフィグレーションと ESMPRO/ServerManager 上へのコンポーネント登録を自動的に行うための情報を設定します。

Options:

ChassisName

筐体名を指定します。

SlotNumber

CPU ブレードのスロット番号を指定します。全スロットに共通の値を設定する場合は”all”を指定します。

PropertyName

設定するプロパティの名前を指定します。一覧を参照してください。

Value

新たに設定する値を指定します。一覧を参照してください。

PropertyName	意味	Value
AUTH_KEY	認証キーを指定します。	16 文字まで
RECONFIGURE_BMC	有効に設定すると、新しく挿入された CPU ブレードだけでなく、既の実装を確認している CPU ブレードについても、BMC コンフィグレーションを行います。無効に設定すると、再コンフィグレーションを行いません。	0:無効、1:有効
REWRITE_IP_ADDRESS	CPU ブレードの BMC コンフィグレーションが実施されていない場合も BMC が DHCP サーバから IP アドレスを取得する機能により IP アドレスだけが設定されている場合があります。この項目を有効に設定すると、BMC コンフィグレーション実施時に、必ず指定された値に更新します。	0:無効、1:有効
DHCP	IP アドレスを BMC が DHCP から自動的に取得します。	0:無効、1:有効
IP_ADDRESS	CPU ブレードに設定する BMC の IP アドレスを指定します。一括設定の場合は、先頭のスロットから順に、指定された IP アドレスから連続した IP アドレスを設定します。	IP アドレス形式
SUBNET_MASK	サブネットマスクを指定します。	IP アドレス形式
DEFAULT_GATEWAY	デフォルトゲートウェイを指定します。	IP アドレス形式
ALERT_RECEIVER_IP_ADDRESS	BMC の 1 次通報先/管理用 PC の IP アドレスを指定します。	IP アドレス形式

2.4.7 getBladeAutoSetting

Syntax:

`dscli getBladeAutoSetting ChassisName SlotNumber`

Description:

このコマンドは EM カードを搭載可能な筐体に対してのみ有効です。
筐体に新しく CPU ブレードが実装されたことを検出したときに、CPU ブレード上の BMC コンフィグレーションと ESMPRO/ServerManager 上へのコンポーネント登録を自動的に行うための情報を表示します。各情報の詳細は 2.4.6 setBladeAutoSetting を参照してください。

Options:

ChassisName

筐体名を指定します。

SlotNumber

CPU ブレードのスロット番号を指定します。

Output:

情報を表示します。

```
RECONFIGURE_BMC : Disable
REWRITE_IP_ADDRESS: Disable
DHCP: Enable
ALERT_RECEIVER_IP_ADDRESS: 192.168.14.18
```

2.5 通信管理系コマンド

2.5.1 connect

Syntax:

dscli connect *Component*

Description:

コンポーネントとの接続形態に従って、コンポーネントにダイレクト接続またはモデム経由で接続します。

Options:

Component

コンポーネントの名前、BMC が使用する LAN ポートの MAC アドレス、または GUID を指定します。

2.5.2 disconnect

Syntax:

dscli disconnect

Description:

現在接続中の回線を切断します。

2.5.3 getConnectionStatus

Syntax:

dscli getConnectionStatus

Description:

ダイレクト接続またはモデム経由接続の接続状態と接続中のコンポーネント名を表示します。

Output:

接続状態を表示します。接続状態には以下の 8 種類があります。

CONNECTING	接続中
CONNECTED	接続完了
DISCONNECTING	切断中
DISCONNECTED	切断完了
CONNECTION_FAILURE	接続失敗
NO_CARRIER	回線切断
BUSY	話中音検出
NO_DIALTONE	ダイヤルトーン未検出

2.6 環境設定系コマンド

2.6.1 setOption

Syntax:

```
dscli setOption OptionName Value
```

Description:

ESMPRO/ServerManager の動作を制御する環境設定項目を設定します。

Options:

OptionName

設定するオプションパラメータの名前です。一覧を参照してください。

Value

新たに設定する値を指定します。一覧を参照してください。

OptionName	意味	Value	初期値
BMC_RETRY_COUNT	コンポーネント上の BMC との通信のリトライ回数です。	0-10	5
BMC_TIMEOUT	コンポーネント上の BMC との通信をリトライする間隔を秒単位で表します。	1-15	5
BMC_SOURCE_PORT	BMC との通信に使用する UDP ポート番号です。	1025-65535	47117
CUI_NO_RESPONSE_TIMEOUT	リモートコンソール接続が通信のタイムアウトにより切断されるまでの秒数です。	20-1800	60
CUI_SYS_RQ_KEY	CUI リモートコンソール接続で使用する SysRq キーのエイリアスキーです。	"": 指定なし "Q": Ctrl+Alt+Q "X": Ctrl+Alt+X	""
HISTORY_LOG_NUMBER_OF_RECORDS	アプリケーションログの最大件数です。	2000-10000	2000
MODEM_PORT_NUMBER	管理コンポーネントにダイレクト接続するときに使用する Manager コンポーネントのシリアルポート番号です。	1-8	1
MONITORING_ENABLE	コンポーネント監視機能の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	1
MONITORING_AUTO_UPDATE_INTERVAL	Web ブラウザ上で ESMPRO/ServerManager を操作する際に、コンポーネント状態の表示を自動更新する機能の、自動更新間隔を秒単位で表します。	1-60	5
RC_POWER_CONTROL_INTERVAL_MILLIS	複数コンポーネントの電源制御を連続して行う際の実行間隔をミリ秒単位で表します。	0-5000	500
RMI_PORT	RMI 通信に使用する TCP ポート番号です。	1024 - 65535	1099

2.6.2 getOption

Syntax:

dscli getOption *OptionName*

Description:

ESMPRO/ServerManager の動作を制御する環境設定項目を表示します。

Options:

OptionName

取得するオプションパラメータの名前です。オプションパラメータの一覧については 2.6.1 setOption を参照してください。

Output:

指定した環境設定項目の値を表示します。

2.6.3 getPermitIpAddrList

Syntax:

dscli getPermitIpAddrList

Description:

ESMPRO/ServerManager へのログインを許可する IP アドレス範囲の一覧を表示します。
設定された IP アドレス範囲にある Web クライアントだけが ESMPRO/ServerManager にログインできます。

Output:

IP アドレス範囲の一覧を表示します。表示例を示します。

No.1: 192.168.0.1 - 192.168.0.254
No.2: 192.168.1.10
No.3: 192.168.2.10

2.6.4 isPermitIpAddr

Syntax:

dscli isPermitIpAddr *CheckIpAddr*

Description:

指定した Web クライアントの IP アドレスがログインを許可された IP アドレスかどうかを表示します。

Options:

CheckIpAddr

IP アドレスを指定します。

Output:

指定した IP アドレスがログイン許可する IP アドレスかどうかを表示します。

OK	許可する
NG	許可しない

2.6.5 addPermitIpAddr

Syntax:

dscli addPermitIpAddr *StartIpAddr* [*EndIpAddr*]

Description:

ESMPRO/ServerManager へのログインを許可する IP アドレス範囲を追加します。
設定された IP アドレス範囲にある Web クライアントだけが ESMPRO/ServerManager にログインできます。

.....
ヒント:

- ESMPRO/ServerManager を起動している Manager コンポーネント上の Web ブラウザからは、アクセス制限に関わらず、ログインできます。
-

Options:

StartIpAddr

ログインを許可する IP アドレス範囲の開始 IP アドレスを指定します。

EndIpAddr

ログインを許可する IP アドレス範囲の終了 IP アドレスを指定します。このオプションを省略した場合は *StartIpAddr* で指定した IP アドレスが単独で追加登録されます。

2.6.6 removePermitIpAddr

Syntax:

dscli removePermitIpAddr *StartIpAddr* [*EndIpAddr*]

Description:

ログインを許可する Web クライアントの IP アドレス範囲を削除します。

Options:

StartIpAddr

開始 IP アドレスを指定します。

EndIpAddr

終了 IP アドレスを指定します。

2.6.7 clearPermitIpAddr

Syntax:

dscli clearPermitIpAddr

Description:

ログインを許可する Web クライアントの IP アドレス範囲を全て削除します。

2.7 ユーザ管理系コマンド

2.7.1 createUser

Syntax:

dscli createUser *UserName Password*

Description:

Web ブラウザで ESMPRO/ServerManager を利用するためのユーザを登録します。登録されるユーザの権限はオペレータとなります。最大 30 ユーザまで作成することができます。

Options:

UserName

新しいユーザ名を指定します。最大 16 文字までの名前を入力できます。

Password

6 ~ 16 文字までのパスワードを指定します。

ヒント:

- *UserName* に既に登録されているユーザの名前は指定できません。

2.7.2 deleteUser

Syntax:

dscli deleteUser *UserName*

Description:

Web ブラウザで ESMPRO/ServerManager を利用するためのユーザの登録を削除します。

Options:

UserName

ユーザの名前を指定します。

2.7.3 getUserList

Syntax:

dscli getUserList

Description:

登録されているユーザの名前、ユーザ権限の一覧を表示します。ユーザ権限の種別にはアドミニストレータとオペレータがあります。

Output:

表示例を示します。

Admin	Administrator
User1	Operator
User2	Operator
:	
:	

2.7.4 setUserProperty

Syntax:

```
dsccli setUserProperty UserName PropertyName Value
```

Description:

指定されたユーザのユーザプロパティを設定します。

Options:

UserName

ユーザの名前を指定します。

PropertyName

設定するプロパティの名前を指定します。一覧を参照してください。

実行権限の変更はオペレータ権限のユーザについて有効です。

○：変更可能、×：変更不可能

Value

新たに設定する値を指定します。一覧を参照してください。

PropertyName	意味	Value	初期値	アドミニストレータ	オペレータ
USER_NAME	ユーザ名です。	16 文字まで	空白	○	○
USER_PASSWORD	ログインパスワードです。	6 ~ 16 文字まで	空白	○	○
USER_COMMENT	ユーザに関する説明です。	100 文字まで	空白	○	○
UL_POWER_ON	パワーON の実行権限の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_POWER_OFF	パワーOFF の実行権限の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_RESET	リセットの実行権限の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_POWER_CYCLE	パワーサイクルの実行権限の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_SHUTDOWN	OS シャットダウンの実行権限の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_DUMP	DUMP スイッチの実行権限の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_SEL_CLEAR	システムイベントログ領域のクリアの実行権限の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_BMC_REMOTE	BMC 設定を変更する実行権限の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_CONFIG_CREATE	コンポーネント追加の実行権限の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_CONFIG_CHANGE_DELETE	接続設定の編集、コンポーネント削除の実行権限の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_REMOTE_CONSOLE	リモートコンソールの実行権限の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_SCHEDULE	スケジュール設定の実行権限の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_REMOTE_BATCH	リモートバッチの実行権限の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○

PropertyName	意味	Value	初期値	アドミニストレータ	オペレータ
UL_SET_POWER_RESTORE_DELAY	電源オプション設定を変更する実行権限の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_SET_AGENT_SETTING	Agent 設定を変更する実行権限の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_SET_CONSOLE_LOG	コンソールログ設定を変更する実行権限の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_SET_ENVIRONMENT_OPTION	環境設定を変更する実行権限の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_SET_BLADE_AUTO_SETTING	CPUブレード自動登録設定を変更する実行権限の有効 / 無効を示します。	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_ELECTRIC_POWER_MONITORING	電力管理の測定開始・中止	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_SET_SERVER_DOWN_MONITORING	死活監視設定の変更	0: 無効 1: 有効	0	×	○
UL_FT_OPERATION	CPU/PCI モジュールのメンテナンス / アップデート	0: 無効 1: 有効	0	×	○

ヒント:

- USER_NAME に既に登録されているユーザの名前は指定できません。

2.7.5 getUserProperty**Syntax:**

```
dscli getUserProperty UserName PropertyName
```

Description:

指定されたユーザのユーザプロパティを表示します。

Options:

UserName

ユーザの名前を指定します。

PropertyName

取得するプロパティの名前を指定します。ユーザプロパティの一覧については 2.7.4 setUserProperty を参照してください。ただし、「USER_PASSWORD」は表示できません。

Output:

指定されたユーザプロパティを表示します。

2.8 その他のコマンド

2.8.1 getApplicationLog

Syntax:
dscli getApplicationLog [*Number*]

Description:
最新のアプリケーションログを、*Number* で指定した件数表示します。

Options:
Number
表示するログの件数を指定します。このオプションを省略した場合は、最新の 10 件を表示します。

Output:
アプリケーションログを表示します。アプリケーションログは 1 行に日付・コンポーネント名・OS IP アドレス・BMC IP アドレス・ユーザ名・イベント内容の順で表示します。

2.8.2 about

Syntax:
dscli about

Description:
ESMPRO/ServerManager のバージョン情報を表示します。

Output:
ESMPRO/ServerManager のバージョン情報を表示します。

2.8.3 help

Syntax:
dscli help [*CommandName*]

Description:
ヘルプを表示します。*CommandName* オプション が指定されていない場合はコマンド一覧を、*CommandName* オプション が指定されている場合は指定されたコマンドのヘルプを表示します。

Options:
CommandName
ヘルプを表示したいコマンド名を入力します。

Output:
コマンド一覧または指定されたコマンドのヘルプを表示します。

Revision History

1.17	2014/01/06	(Ver.5.74) 新規作成 (NX7700x シリーズ)
------	------------	---------------------------------------